



613-000358 Rev.A 051209

8CH マルチプロトコル WDM シャーシ

CentreCOM® **LX3800**

AT-S65 オペレーションマニュアル

CentreCOM® ***LX3800***

AT-S65 オペレーションマニュアル

安全のために



必ずお守りください



警告 下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源ケーブルを抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

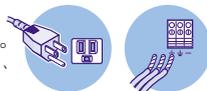
火災や感電の原因となります。本製品はAC100-240V、またはDC48Vで動作します。なお、AC電源ユニットに付属の電源ケーブルは、AC100-120V用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい電源・電源ケーブルを使用する

不適切な電源や電源ケーブルの使用は火災や感電の原因となります。AC電源との接続には、接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。DC電源との接続には、14AWGより太い3心トレイケーブルを使用し、DC電源供給装置・設備に接続してください。



正しい電源

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。

AC電源使用時は電源プラグを抜いてください。

DC電源使用時は電源供給側の電源を切ってから、電源ケーブル(端子)を外してください。



ケーブルを
抜く

電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

光源をのぞきこまない

目に傷害を被る場合があります。

光ファイバーケーブルのコネクタ、ケーブルの断面、製品本体のコネクタなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いにはいねいに

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤



強く絞る

使用

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
(化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。)



シンナー
類不可

このマニュアルについて

このたびは、CentreCOM LX3800 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、最大 8 チャンネルのギガビット信号を波長分割多重 (WDM:Wavelength Division Multiplexing) する装置です。ローカルポートの 8 チャンネル分の信号を装置内でそれぞれ波長の異なる 8 つの送信信号・受信信号に分割して、リモートポートから 2 本の光ファイバーに集約し、多重伝送を行います。この構成により、1 対の光ファイバーで、最大 40Gbps の伝送パフォーマンスを持ちます。

オプション (別売) のマルチプロトコル WDM ラインカード「AT-LX3811-x」は、ギガビットイーサネット、ファイバーチャネル、SONET/SDH の各種プロトコルに対応した SFP (Small Formfactor Pluggable) モジュール用のスロットを備えており、内蔵のメディアコンバーターによってチャンネルごとの多重用光信号に変換します。チャンネルごとに専用モジュールとして AT-LX3811-1 から AT-LX3811-8 までの 8 製品を用意しています。

内蔵のマネージメント機能を使用することにより、Telnet やコンソールポートから設定や診断が簡単に行えます。また、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) による管理が可能な SNMP エージェント機能により、SNMP マネージャーから各種情報を監視・設定することができます。

また、オプション (別売) の AC100V 電源ユニット「AT-LXPWR-10」または、DC48V 電源ユニット「AT-LXPWR-80」を使用することにより、電源障害による機能停止を防ぎます。

本書では、本製品の各機能の解説、メニューの使用方法など、本製品の設定項目に関する情報について記載しています。

本製品の特長などの概要、設置や接続の手順などにつきましては、本製品に同梱のインストールガイド (冊子) をご覧ください。

本書は、本製品のファームウェアバージョン「1.1.0」をもとに記述されていますが、「1.1.0」よりも新しいバージョンのファームウェアが搭載された製品に同梱されることがあります。その場合は、必ずリリースノートをお読みください。リリースノートには、重要な情報や最新の情報が記載されています。

各マニュアルをよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の3部で構成されています。

各マニュアルをよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。また、お読みになった後も、製品保証書とともに大切に保管してください。

○ **インストレーションガイド**

本製品の設置と接続など、本製品を使い始めるにあたっての最低限の情報が記載されています。

○ **オペレーションマニュアル（本書）**

本製品のメニュー画面の使いかた、設定手順、各機能の解説など、本製品の管理に関する情報が記載されています。

オペレーションマニュアルは、作成当時より新しいバージョンのファームウェアが搭載された製品に同梱されることがあります。製品のご使用にあたっては、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノートをお読みになり、最新の情報をご確認ください。リリースノートには、各バージョンごとの注意事項や最新情報が記載されています。

○ **リリースノート（弊社ホームページに掲載）**

ソフトウェアリリースで追加された機能、変更点、注意点や、インストレーションガイドとオペレーションマニュアルの内容を補足する最新情報が記載されています。リリースノートは本製品には同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

このマニュアルについて

表記について

アイコン

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライターで表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

製品名の表記

本書では、LX3800 のように CentreCOM を省略して記載することがあります。「本製品」と表記している場合は 8CH マルチプロトコル WDM シャーシ「CentreCOM LX3800」を意味します。

「AT-LX3811-x」と表記している場合は、マルチプロトコル WDM ラインカード「AT-LX3811-1」、「AT-LX3811-2」、「AT-LX3811-3」、「AT-LX3811-4」、「AT-LX3811-5」、「AT-LX3811-6」、「AT-LX3811-7」、「AT-LX3811-8」のいずれかまたはすべてを示します。また、「AT-LXPWR-10/80」と表記している場合は、AC100V 電源ユニット「AT-LXPWR-10」、DC48V 電源ユニット「AT-LXPWR-80」のいずれかまたは両方を示します。

目次

安全のために	4
このマニュアルについて	6
マニュアルの構成	7
表記について	8
1 はじめに	11
1.1 設定の準備	12
コンソールターミナルを使用する	12
Telnet を使用する	15
ログアウトする	18
1.2 メニュー形式のインターフェース	19
メニュー項目の一覧	20
2 基本の設定と操作	23
2.1 基本の設定	24
パスワードを設定する	24
IP アドレスを設定する	25
Telnet を使用する	28
システム名を設定する	29
SNMP パラメーターを設定する	30
本製品の再起動	32
ご購入時の状態に戻す	33
3 メニュー操作	35
3.1 モジュール情報と設定	36
モジュール情報の表示	36
ラインカードの状態と設定	39
SFP の詳細な情報	43
SFP ベンダーの詳細な情報	44
ラインカードの動作モードの設定	45
マネージメントモジュールの状態	47
電源ユニットの状態	48
ファンの状態	50
3.2 システム管理	52
システム管理	52

目次

	コンソールポート経由でのダウンロード.....	55
	ネットワーク経由でのダウンロード.....	57
	PING テストの実行.....	59
	イベントログの表示と消去.....	60
	イベントログの表示.....	61
	アクティブモニター.....	63
	ハードウェアのエラー.....	64
	診断画面とバージョンの表示.....	65
	本製品の診断.....	66
	ラインカードの診断.....	68
	本製品の再起動.....	70
	設定をご購入時の状態に戻す.....	71
3.3	システム設定.....	72
	モジュール情報の表示.....	72
	日付と時刻の設定.....	74
	ログインとセッションタイムアウト.....	78
	IP パラメーターと SNMP.....	81
	トラップパラメーター.....	86
	コンソールポートの通信速度.....	88
	温度トラップの設定.....	89
	「Chassis Over-Temperature」トラップの設定.....	90
	「Module Over-Temperature」トラップの設定.....	91
	「SFP Over-Temperature」トラップの設定.....	93
4	付録	95
4.1	デフォルト設定.....	96
4.2	ハイパーターミナルの設定.....	97
4.3	Telnet クライアントの設定.....	99

1

はじめに

この章では、設定の前の準備、メニューの操作方法と構造について説明しています。

1.1 設定の準備

本製品に対する設定は、コンソールポートに接続したコンソール、またはネットワーク上のコンピューターから Telnet を使用して行います。



Telnet を使用する場合は、あらかじめローカルから本製品に IP アドレスを割り当てておく必要があります。

コンソールターミナルを使用する

コンソールターミナルの設定

コンソールターミナル（通信ソフトウェア）に設定するパラメーターは次の通りです。

項目	値
通信速度	115,200bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの使い方	Ctrl+H
エンコード方法	シフト JIS (SJIS)



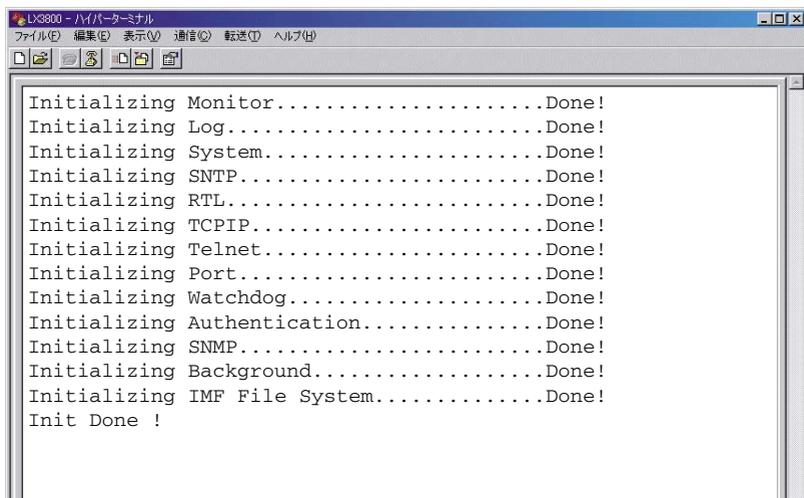
通信ソフトウェアとして、Windows 2000/XP に標準装備のハイパーターミナルを使用する場合は、97 ページ「ハイパーターミナルの設定」を参照してください。

本製品を起動する



本製品とコンソールの接続手順については、本製品に同梱のインストレーションガイド 31 ページ「コンソールポートの接続」を参照してください。また、本製品と電源ケーブルの接続手順については、本製品に同梱のインストレーションガイド 33 ページ「電源ケーブルの接続」を参照してください。

- 1 コンピューター（ローカルコンソール）の電源を入れ、ハイパーターミナルなどの通信ソフトウェアを起動します。
- 2 本製品の電源を入れます。
- 3 自己診断テストの実行後、システムソフトウェアが起動します。



4 「Init Done !」と表示されたら、**[Enter]** キーを押します。

5 「Login:」プロンプトが表示されます。

ログインする

本製品には、権限によって「manager（管理者）」と「operator（一般ユーザー）」2つのユーザーが登録されています。本製品に対する設定や管理を行うには、ユーザーアカウント「manager」でログインする必要があります。

1 「Login:」プロンプトが表示されたら、ユーザー名「manager」を入力し、**[Enter]** キーを押します。
ユーザー名は大文字 / 小文字を区別します。

```
Login: manager [Enter]
```

2 「Password:」プロンプトが表示されたら、パスワードを入力し、**[Enter]** キーを押します。
初期パスワードは「friend」です。パスワードは大文字 / 小文字を区別します。実際の画面では入力した文字の代わりに「*」が表示されます。

```
Password: friend [Enter]
```

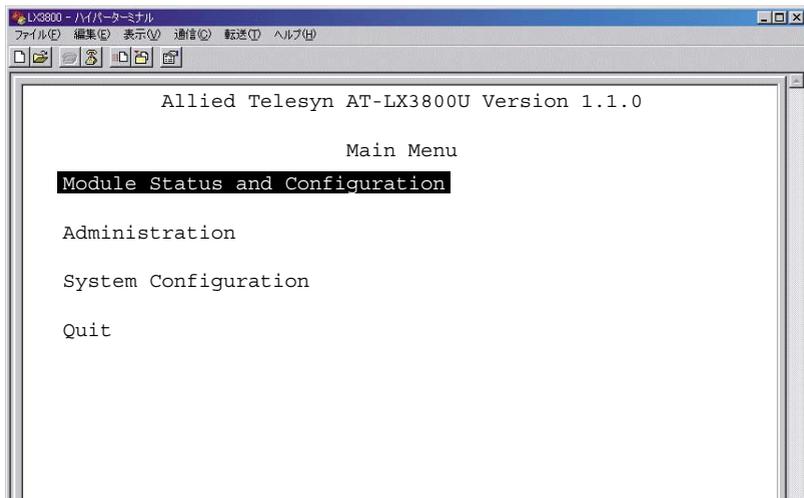
1.1 設定の準備



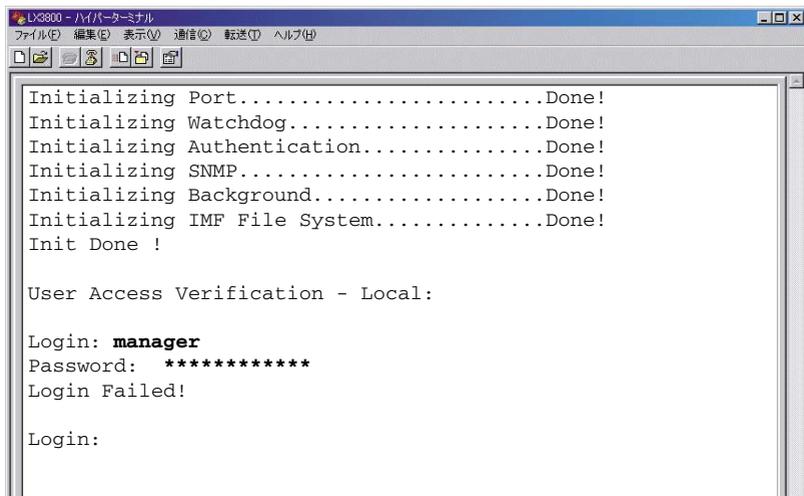
ユーザーアカウント「operator」の初期パスワードは「operator」です。

ヒント

3 「Main Menu」画面が表示されます。



ユーザー名またはパスワードが間違っている場合は、次のメッセージが表示されてログインできません。再度「Login:」プロンプトに続けて、正しいユーザー名とパスワードを入力してください。

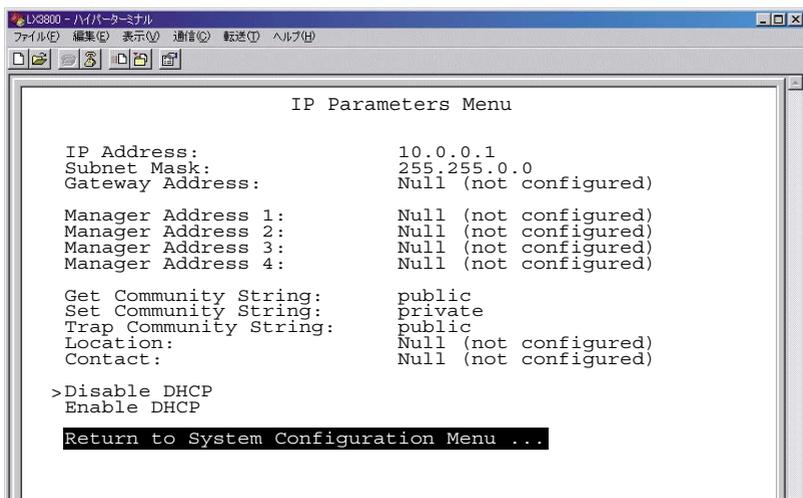


Telnet を使用する

Telnet を使用する場合は、あらかじめローカルから本製品に IP アドレスを割り当てておきます。

手動で IP アドレスを変更する

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [IP Parameters] と進み、「IP Parameters Menu」画面を表示します。



この画面には、SNMP や Telnet で本製品を管理するためのパラメーターが表示されます。SNMP や Telnet を使用する場合は、最低、IP アドレスとサブネットマスクの設定が必要になります。

本製品にはデフォルトで IP アドレス「10.0.0.1」、サブネットマスク「255.255.0.0」が設定されています。

- 1 本製品の IP パラメーターを変更します。
「IP Address」の頭文字 **[I]** キー、または「Subnet Mask」の頭文字 **[S]** キーを押して、入力フィールドの「10.0.0.1」、または「255.255.0.0」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して「->」プロンプトを表示します。

1.1 設定の準備

- 3 「->」プロンプトに続けて IP アドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。
IP アドレスは X.X.X.X の形式で、X が 0 ～ 255 までの半角数字を使用し設定します。

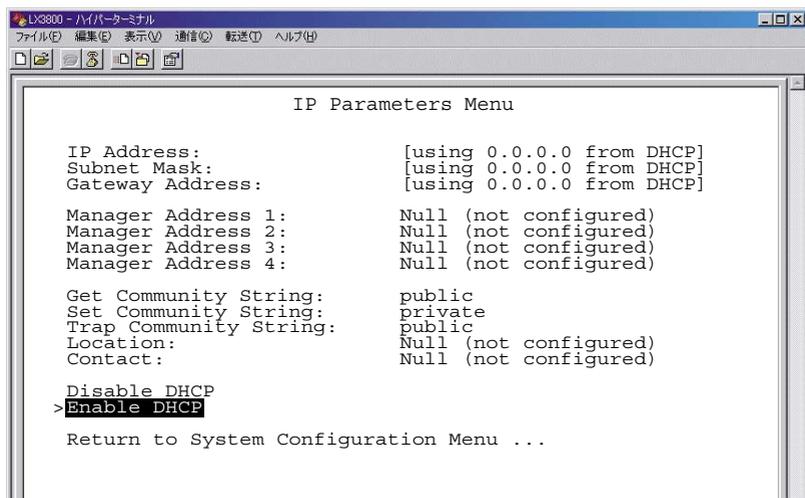


リモート (Telnet) からユーザーがログインしている場合も、リモートログインしているユーザーのログアウトを待たずに IP アドレスの変更が有効になりますので、接続が切断されます。IP アドレスの変更はコンソールから行ってください。

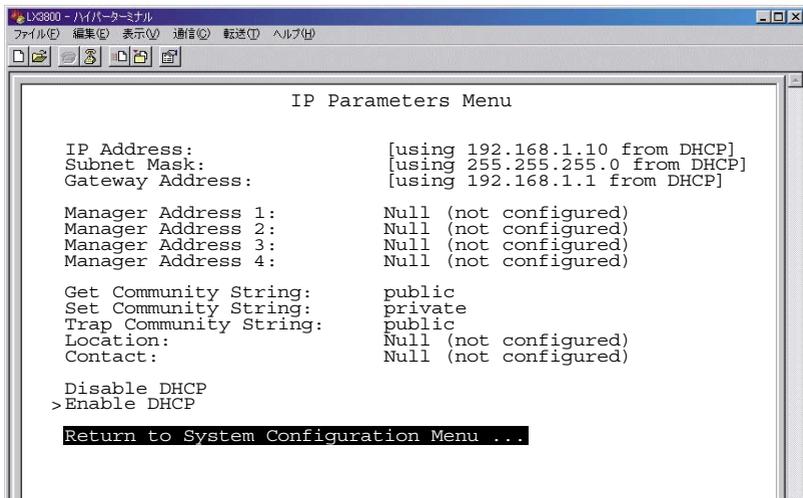
DHCP で IP アドレスを自動設定する

ネットワーク上の DHCP サーバーを利用して、本製品の IP アドレスを自動設定することもできます (DHCP クライアント機能)。DHCP クライアント機能はデフォルトで無効 (Disable DHCP) に設定されています。

- 1 [Main Menu] -> [System Configuration] -> [IP Parameters] と進み、「IP Parameters Menu」画面を表示します。
すでに手動で IP アドレスが割り当てられている場合も「Null (not configured)」に戻す必要はありません。
- 2 DHCP クライアント機能を有効にします。
「Enable DHCP」の頭文字 **[E]** キーを押して、「Enable DHCP」の文字をハイライト表示し、**[Enter]** キーを押します。
「IP Address」、「Subnet Mask」、「Gateway Address」の表示が変わります。



- 3** DHCP サーバーから自動的に IP アドレスが割り当てられていることを確認します。「System Configuration Menu」画面に戻り、「IP Parameters Menu」を再び表示させます。
- DHCP サーバーから自動的に IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスが割り当てられています。



Telnet でログインする

本製品の Telnet 機能はデフォルトで有効になっています。本製品に IP アドレスを設定すれば、ネットワーク上のコンピューターから Telnet を使用してログインできます。

- 1** 通信機能が利用できるコンピューターから、本製品に対して Telnet を実行します。ここでは、本製品にあらかじめ IP アドレス「192.168.1.10」が割り当てられているものとします。

```
telnet 192.168.1.10 [Enter]
```

- 2** Telnet セッションが確立すると、「Login:」プロンプトが表示されます。



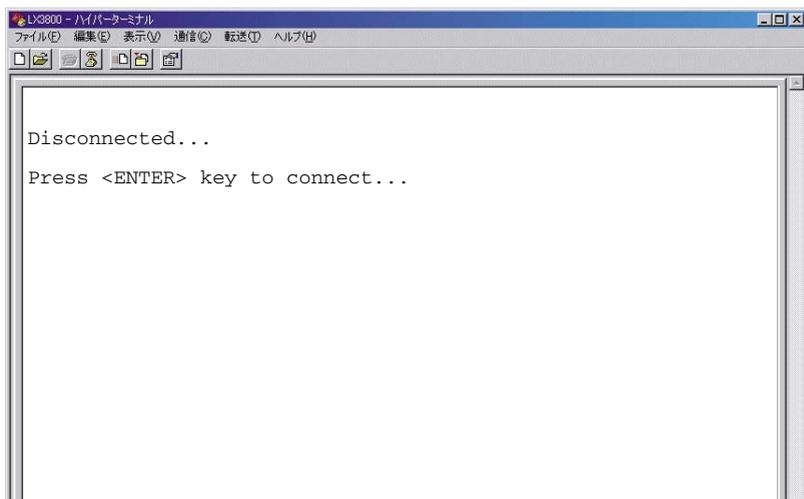
Windows 2000/XP で Telnet を使用する場合は、99 ページ「Telnet クライアントの設定」を参照してください。

1.1 設定の準備

ログアウトする

設定が終了したら、本製品からログアウトして、セッションを終了します。

- 1 「Main Menu」画面を表示します。
- 2 「Quit」の頭文字 **Q** キーを押して、「Quit」の文字をハイライト表示します。
- 3 **Enter** キーを押すと、次のメッセージが表示され、セッションが終了します。



 **ヒント** 本製品にログインした状態で一定期間操作を行わなかった場合、自動的にセッションが終了します。ログインセッションのタイムアウト時間は、デフォルトでは5分に設定されています。

 **ヒント** セキュリティ保護のため、通信ソフトウェアを終了する前に、必ずログアウトしてください。

1.2 メニュー形式のインターフェース

本製品はメニュー形式のユーザーインターフェースをサポートしています。

画面の表示

現在「有効」(Enabled) に設定されている項目には、「>」マークがついています。
選択した項目はハイライトで表示されます。

項目を選択する

選択する項目の頭文字を入力して (大文字 / 小文字の区別なし)、ハイライト表示させ、**[Enter]** キーを押します。

同じ頭文字を持つオプションが2つ以上ある場合は、頭文字を複数回入力するか、**[↑]** (上) と **[↓]** (下) の方向キーを使用して、選択する項目をハイライト表示させます (通信ソフトウェアによっては、方向キーが使用できない場合があります)。

数字や名前を入力 / 削除する

項目を選択し、「->」プロンプトの後に数字や名前を入力して、**[Enter]** キーを押します。
項目を選択したときに入力画面に移動する場合と、項目入力フィールドに「->」プロンプトが表示される場合があります。

数字や名前を削除する (Null に設定する) 場合は、「->」プロンプトの後に (現在設定されている数字や名前の上から) **[スペース]** を入力して、**[Enter]** キーを押します。

IP アドレスを削除する場合は「0.0.0.0」を入力して、**[Enter]** キーを押します。

画面を移動する

前の画面に戻る場合は、画面一番下の「Return to ~ ...」を選択し **[Enter]** キーを押すか、**[Esc]** キーを押します。

1.2 メニュー形式のインターフェース

メニュー項目の一覧

メインメニューには、機能別に分類された3つのメニュー項目があります。
35 ページ「メニュー操作」で各項目をメニュー画面に沿って説明して行きます。

3.1 モジュール情報と設定 ⇒ 36 ページ

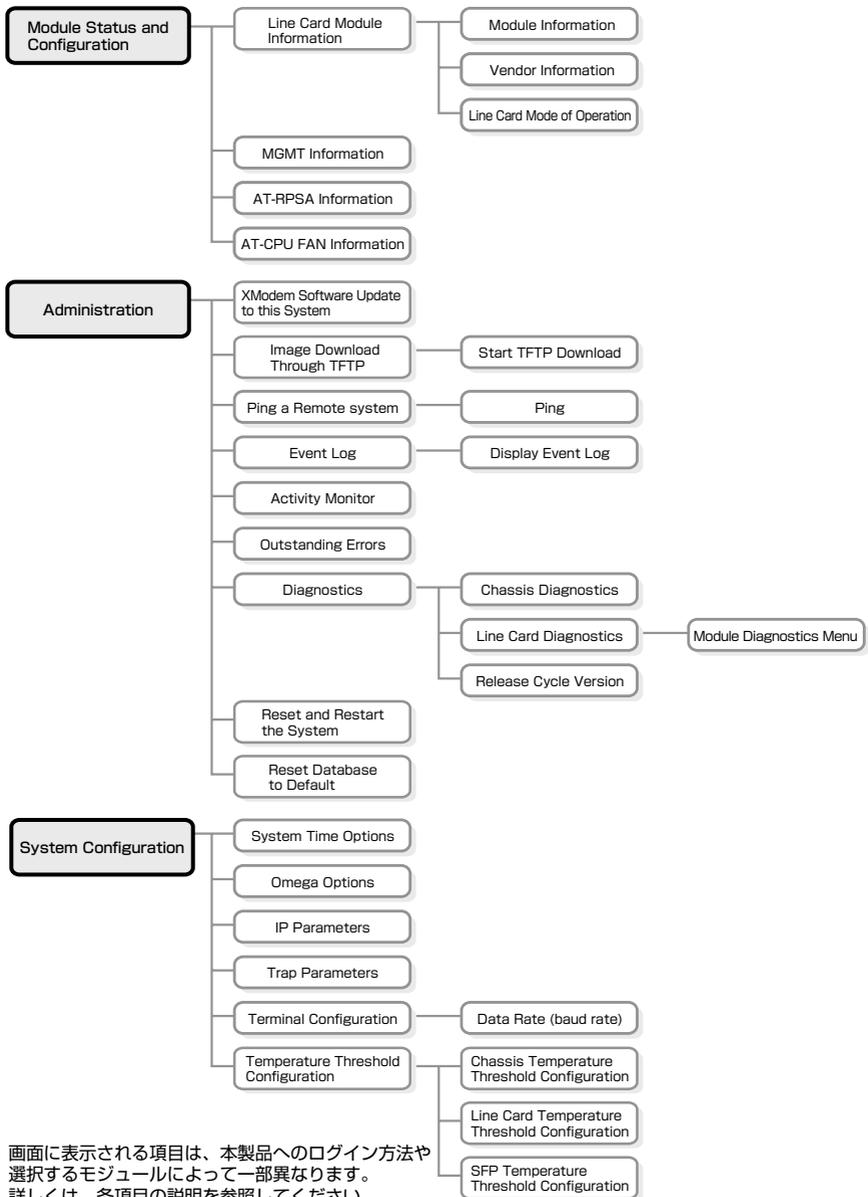
ラインカード、マネージメントポート、電源、ファンの状態表示や設定を行います。
ラインカードの有効 / 無効、ポートの有効 / 無効、モジュール名の設定、ラインカードモードの変更などがあります。

3.2 システム管理 ⇒ 52 ページ

システム管理のための設定や情報の表示を行います。
ファームウェアのダウンロード、Ping テスト、ログの表示、アクティブモニター、エラーの表示、システム診断、本製品の再起動などがあります。

3.3 システム設定 ⇒ 72 ページ

システムの基本的な設定を行います。
システム名、SNMP 設定、IP パラメーター、トラップパラメーター、ターミナル設定などがあります。



1.2 メニュー形式のインターフェース

2

基本の設定と操作

この章では、本製品の基本的な設定と操作について説明します。
詳細については、3章の「メニュー操作」を参照してください。

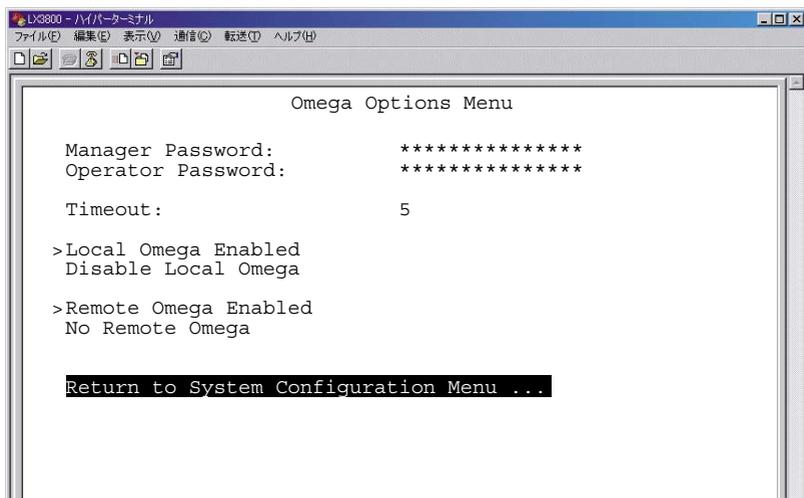
2.1 基本の設定

パスワードを設定する

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [Omega Options] と進み、「Omega Options Menu」画面を表示します。

パスワードを設定します。セキュリティ保護のために、まず、パスワードの設定を行うことをおすすめします。

ここでは、「manager」のパスワードの設定を行う場合を例に説明します。

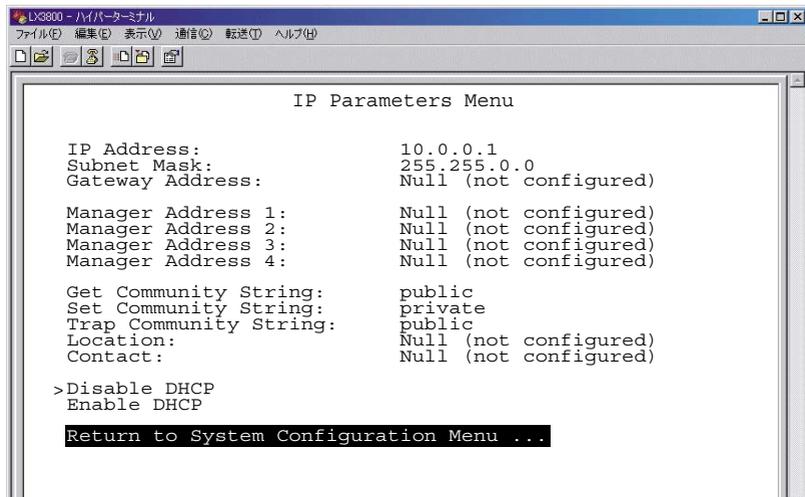


- 1 「Manager Password」の頭文字 **[M]** キーを押して「*****」の部分をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 新しいパスワードを入力して、**[Enter]** キーを押します。

IP アドレスを設定する

手動で IP アドレスを設定する

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [IP Parameters] と進み、「IP Parameters Menu」画面を表示します。



この画面には、SNMP や Telnet で本製品を管理するためのパラメーターが表示されます。SNMP や Telnet を使用する場合は、最低、IP アドレスとサブネットマスクの設定が必要になります。

本製品にはデフォルトで IP アドレス「10.0.0.1」、サブネットマスク「255.255.0.0」が設定されています。

- 1 本製品の IP パラメーターを設定します。
「IP Address」の頭文字 **[I]** キー、または「Subnet Mask」の頭文字 **[S]** キーを押して、入力フィールドの「10.0.0.1」、または「255.255.0.0」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて IP アドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。
IP アドレスは X.X.X.X の形式で、X が 0 ~ 255 までの半角数字を使用し設定します。

2.1 基本の設定

 リモート (Telnet) からユーザーがログインしている場合も、リモートログインしているユーザーのログアウトを待たずに IP アドレスの変更が有効になりますので、接続が切断されます。IP アドレスの変更はコンソールから行ってください。

DHCP で IP アドレスを自動設定する

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [IP Parameters] と進み、「IP Parameters Menu」画面を表示します。

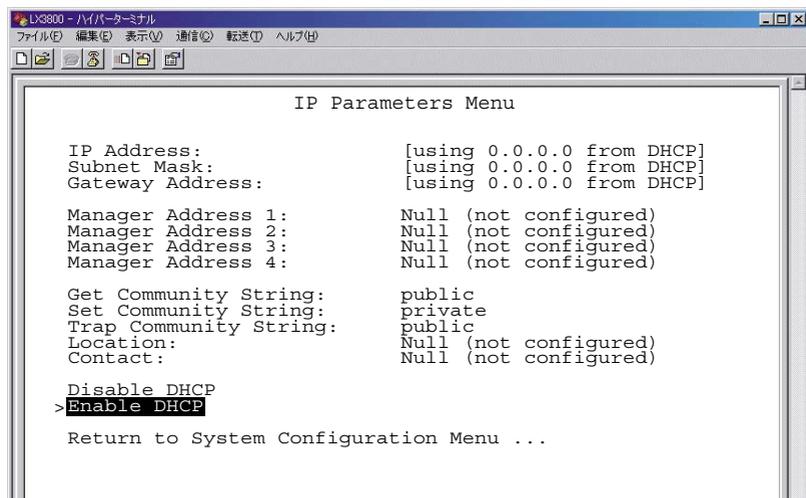
ネットワーク上の DHCP サーバーを利用して、本製品の IP アドレスを自動設定することもできます (DHCP クライアント機能)。DHCP クライアント機能はデフォルトで無効 (Disable DHCP) に設定されています。

 すでに手動で IP アドレスが割り当てられている場合も「Null (not configured)」にする必要はありません。

1 「Enable」の頭文字 **[E]** キーを押して、「Enable」の文字をハイライト表示します。

2 **[Enter]** キーを押します。

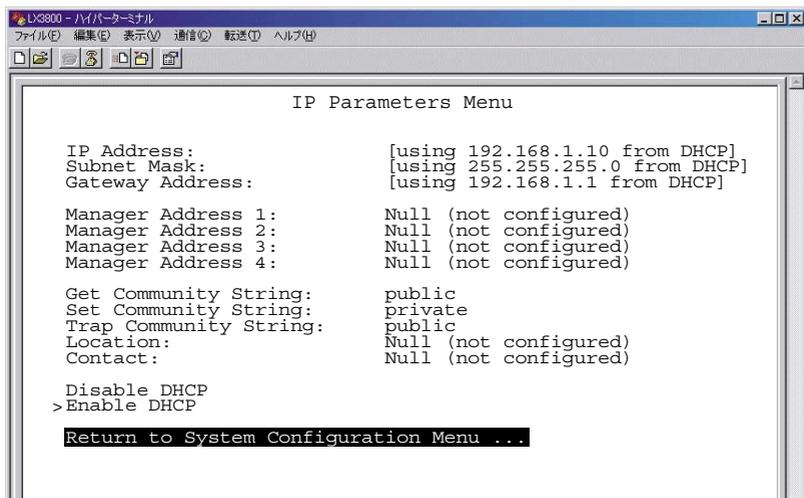
「IP Address」、「Subnet Mask」、「Gateway Address」の表示が変わります。



3 DHCP サーバーから自動的に IP アドレスが割り当てられていることを確認します。「System Configuration Menu」画面に戻り、「IP Parameters Menu」を再び表示

します。

DHCP サーバーから自動的に IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスが割り当てられています。



2.1 基本の設定

Telnet を使用する

本製品の Telnet サーバー機能は、デフォルトで有効になっています。本製品に IP アドレスを設定すると、Telnet クライアントからネットワーク経由で本製品にログインできます。

Telnet クライアントには、次のパラメーターを設定します。

項目	値
エミュレーション	VT100

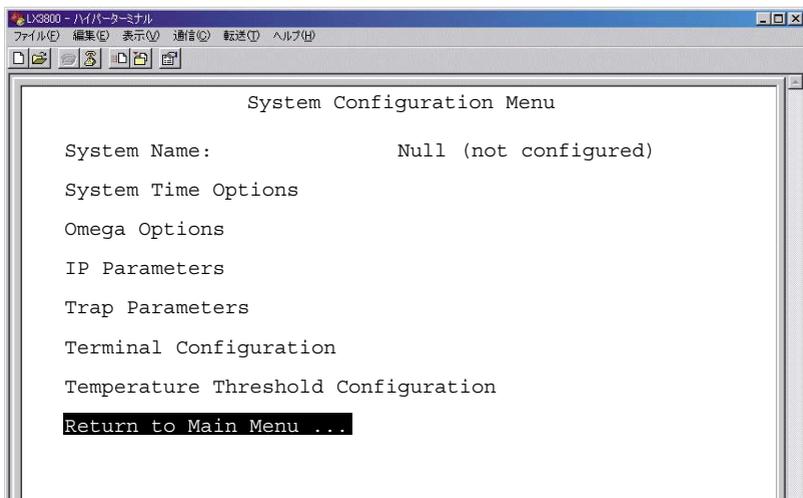
- 1 通信機能が利用できるコンピューターから、本製品に対して Telnet を実行します。ここでは、本製品にあらかじめ IP アドレス「192.168.1.10」が割り当てられているものとします。

```
telnet 192.168.1.10 [Enter]
```

- 2 Telnet セッションが確立すると、「Login:」プロンプトが表示されます。

システム名を設定する

[Main Menu] -> [System Configuration] と進み、「System Configuration Menu」を表示します。



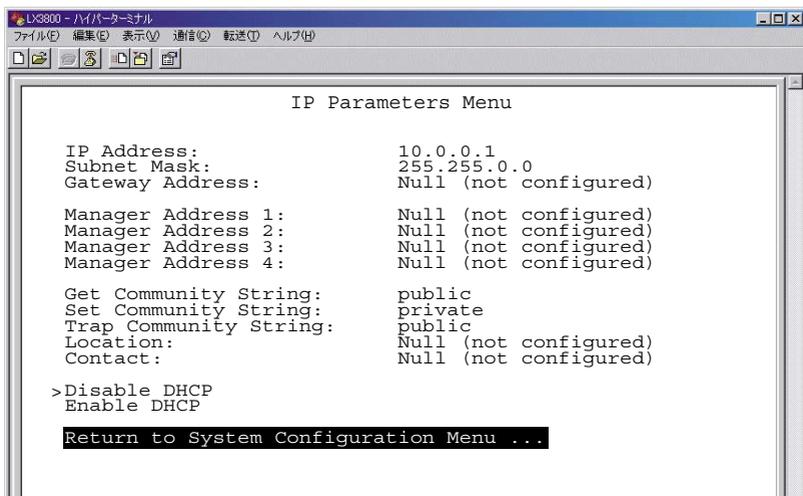
システム名を設定すると、複数のシステムを管理する場合に、各システムの識別がしやすくなり便利です。

- 1 「System Name」の頭文字 **[S]** キーを押して、「Null (not configured)」の文字をハイライト表示します。
 - 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
 - 3 「->」プロンプトに続けてシステム名を入力し、**[Enter]** キーを押します。
システム名は 1 ~ 20 文字の半角英数字と記号が使用できます。
-  システム名を削除して、「Null (not configured)」に戻すには、「->」プロンプトに続けて（すでに設定してある名前の上から）**[スペース]** を入力し、**[Enter]** キーを押します。

2.1 基本の設定

SNMP パラメーターを設定する

[Main Menu] -> [System Configuration Menu] -> [IP Parameters] と進み、「IP Parameters Menu」を表示します。



SNMP マネージャー（トラップホスト）を設定する

トラップは設定した SNMP マネージャーだけに送信されます。SNMP マネージャーは 4 つまで設定することができます。

- 1 「Manager Address」の頭文字 **M** キーを押して、「Null (not configured)」の文字をハイライト表示します。
- 2 **Enter** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて SNMP マネージャーの IP アドレスを入力し、**Enter** キーを押します。
IP アドレスは X.X.X.X の形式で、X が 0 ~ 255 までの半角数字を使用し設定します。

SNMP コミュニティーを設定する

「Get」、「Set」、「Trap」に設定するコミュニティ名を設定します。
SNMP コミュニティー名は、MIB にアクセスすることを認証するためのパスワードとして使用される任意の文字列です

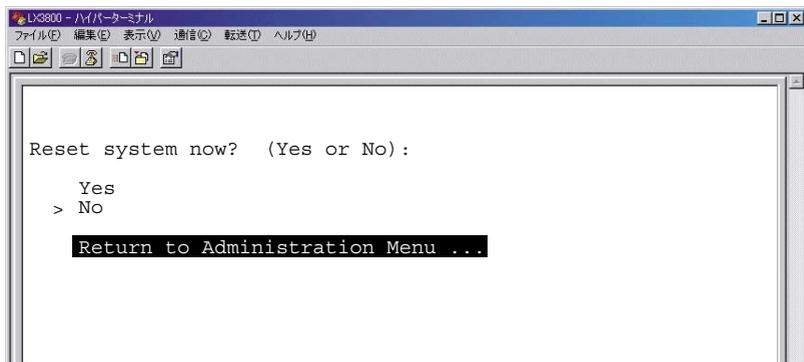
- 1 「Get Community String」、「Set Community String」、「Trap Community String」各項目の頭文字を押して、「public」または「private」の文字をハイライト表示します。
- 2 **Enter** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてコミュニティ名を入力し、**Enter** キーを押します。
コミュニティ名は 1 ～ 20 文字の半角英数字と記号が使用できます。
デフォルトで「Get Community String」は「public」、「Set Community String」は「private」、「Trap Community String」は「public」に設定されています。

2.1 基本の設定

本製品の再起動

本製品の再起動は、リセットボタンと同じハードウェア的なリセットを行います。

[Main Menu] -> [Administration] -> [Reset and Restart the System] と進み、下の画面を表示します。



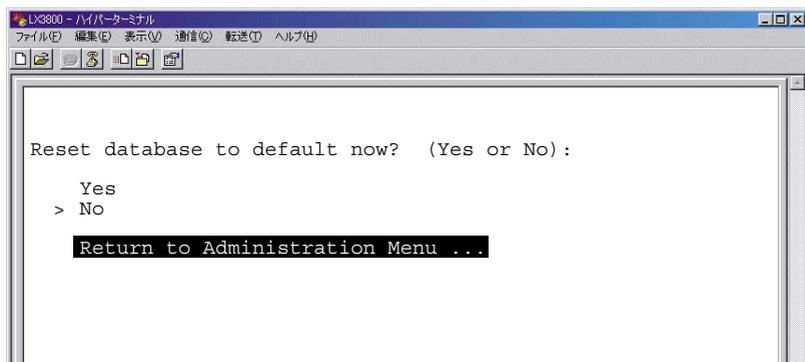
- 1 ここで再起動するかどうかの確認を促すメッセージが表示されますので、再起動する場合は、「Yes」の頭文字 **[Y]** キーを押して、「Yes」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押すと、本製品が再起動します。

ご購入時の状態に戻す

システムの日付と時刻以外のすべてのパラメーターをご購入時の状態に戻します。

メニュー画面から戻す

[Main Menu] -> [Administration] -> [Reset Database to Default] と進み、下の画面を表示します。



1 ここで、パラメーターを削除するかどうかの確認を促すメッセージが表示されますので、再起動する場合は、「Yes」の頭文字 **Y** キーを押して、「Yes」の文字をハイライト表示します。

2 **Enter** キーを押すと、下のメッセージが表示され、本製品が再起動します。

```
Database has been reset to default, now rebooting the system ...
```

Boot メニューから戻す

1 電源スイッチを一旦オフにしてから再びオンにする、リセットボタンを押す、または「Reset and Restart the System」から本製品を再起動します。

2 下のメッセージが表示されている間に任意のキーを押して、Boot メニューを表示します。

```
Press any key to stop image loading and go to Boot Prompt...
```

2.1 基本の設定

3 「=>」プロンプトに続けて、**[H]**または**[?]**を入力し、**[Enter]**キーを押します。

4 「=>」プロンプトに続けて「ec」と入力し、**[Enter]**キーを押します。

5 次のメッセージが表示されたら、**[Y]**キーを押します。

```
**WARNING**  
Running this process will destroy the contents of DB in Flash  
Press Y to continue or any other key to abort ==>
```

6 設定内容をご購入時の状態に戻ると、再び「=>」プロンプトが表示されます。

```
Erase Application Configuration DB SUCCESS !!!  
=>
```

7 「=>」プロンプトに続けて「boot」と入力し、**[Enter]**キーを押すと、本製品が再起動します。

3

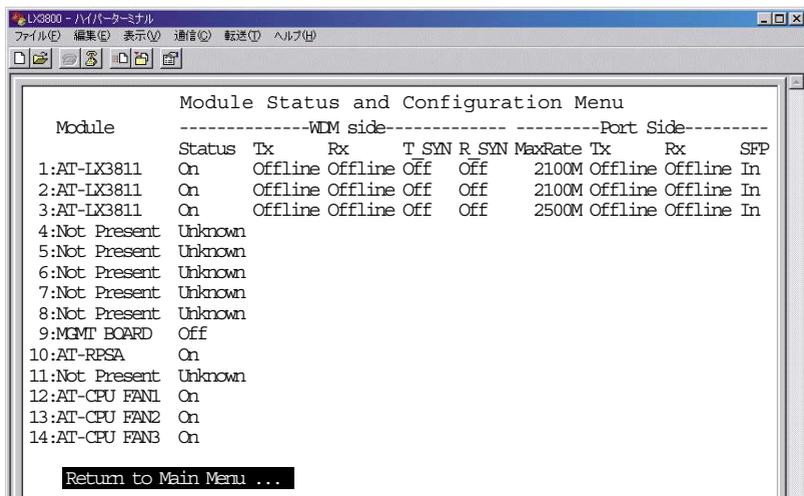
メニュー操作

この章では、メニューの操作方法を、メニュー項目ごとに説明しています。

3.1 モジュール情報と設定

モジュール情報の表示

[Main Menu] -> [Module Status and Configuration] と進み、「Module Status and Configuration Menu」画面を表示します。



ラインカード、内蔵のマネージメントモジュール、電源ユニット、ファンモジュールの状態を表示しています。

Module

モジュールの種類

1～8	ラインカード
9	マネージメントモジュール
10、11	電源ユニット
12～14	ファンモジュール

 ラインカードの詳細については 39 ページ「ラインカードの状態と設定」、マネージメントモジュールの詳細については 47 ページ「マネージメントモジュールの状態」、電源ユニットの詳細については 48 ページ「電源ユニットの状態」、ファンの詳細については 50 ページ「ファンの状態」を参照してください。

WDM Side

ラインカード、マネージメントモジュール、電源ユニット、ファンモジュールの状態と、ラインカードとリンクパートナー（リモートポート対向のLX3800）の対応するチャンネルの通信状態を表示します。

Status

ラインカード、マネージメントモジュール、電源ユニット、ファンモジュールの現在の状態

Unknown 装着されていません。

MISMATCH ラインカードとラインカードスロットの組み合わせが誤っている可能性があります。

On 正常に動作しています。

Off マネージメントポートのリンクが確立していません。または、電源ユニットの電源が入っていません。

TX

リモートポート側の送信の状態

Offline リモートポートの対向機器とリンクが確立していません。

Online リモートポートの対向機器に対してリンク信号を送信しています。

RX

リモートポート側の受信の状態

Offline リモートポートの対向機器とリンクが確立していません。

Online リモートポートの対向機器からリンク信号を受信しています。

T_SYN

TX（送信）側の同期の状態

Off リモートポートのTXの信号が、対向機器と同期していません。

On リモートポートのTXの信号が、対向機器と同期しています。

R_SYN

RX（受信）側の同期の状態

Off リモートポートのRXの信号が、対向機器と同期していません。

On リモートポートのRXの信号が、対向機器と同期しています。

Port Side

ローカルポート（SFP）と接続機器の通信状態を表示します。

Max Rate

ラインカードに装着されているSFPの最大伝送速度。

TX

SFPの送信の状態

Offline ローカルポートの接続機器とリンクが確立していません。

Online ローカルポートの接続機器に対してリンク信号を送信しています。

3.1 モジュール情報と設定

RX

SFP の受信の状態

Offline	ローカルポートの接続機器とリンクが確立していません。
---------	----------------------------

Online	ローカルポートの接続機器からリンク信号を受信しています。
--------	------------------------------

SFP

SFP の状態

In	SFP が SFP スロットに装着されています。
----	--------------------------

Out	SFP が SFP スロットに装着されていません。
-----	---------------------------



ヒント

ラインカードの抜き差しを頻繁に繰り返すと、ラインカードの情報が正しく反映されないことがあります。ラインカードを一旦抜いてから再び装着する際は、10 秒程度間隔を空け、状態が反映されたことを確認してから装着してください。

ラインカードの状態と設定

[Main Menu] -> [Module Status and Configuration] -> [AT-LX3811] と進み、次の画面を表示します。

```
1:AT-LX3811
Module Name

Port          Link
Tx            Offline
Rx            Offline

Wave Length   1470
Temperature   39.5 C
Current Data Rate 0.0 Mbps

Module Location
Module Information
Vendor Information
Module Status           Enabled
Port Status             Enabled
Line Card Mode of Operation

Return to Module Status and Configuration Menu ...
```

ラインカードのリンクの状態、温度、伝送速度を表示しています。

Module Name

ラインカードの名前を設定します。

- 1 「Module Name」の頭文字 **[M]** キーを押して、「Module Name」の右側に「**_**」を表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「**->**」プロンプトを表示します。
- 3 「**->**」プロンプトに続けて、モジュール名を入力し、**[Enter]** キーを押します。
モジュール名には 1～20 文字の半角英数字と記号が使用できます。



ヒント

モジュール名を削除して、デフォルトの状態に戻すには、「**->**」プロンプトに続けて（すでに設定してある名前の上から）**[スペース]**を入力し、**[Enter]** キーを押します。

3.1 モジュール情報と設定

Port/Link

ローカルポート（SFP）とローカルポートに接続された機器との通信状態を表示します。

TX

SFPの送信の状態

Offline ローカルポートの接続機器とリンクが確立していません。

Online ローカルポートの接続機器に対してリンク信号を送信しています。

RX

SFPの受信の状態

Offline ローカルポートの接続機器とリンクが確立していません。

Online ローカルポートの接続機器からリンク信号を受信しています。

Wave Length

ラインカードの使用波長。

ラインカードはライン側の波長によって対応するスロットが異なります。ラインカードの製品名とスロットは次のように対応しています。

製品名	使用波長 (nm)	スロット番号	色	製品名	使用波長 (nm)	スロット番号	色
AT-LX3811-1	1470	1	灰	AT-LX3811-5	1550	5	黄
AT-LX3811-2	1490	2	紫	AT-LX3811-6	1570	6	橙
AT-LX3811-3	1510	3	青	AT-LX3811-7	1590	7	赤
AT-LX3811-4	1530	4	緑	AT-LX3811-8	1610	8	茶

Temperature

ラインカードの現在の温度。

Current Data Rate

ラインカードの伝送速度。

Module Location

モジュールの設置場所を設定します。

- 1 「Module Location」の頭文字 **[M]** キーを押して、「Module Location」の右側に「**_**」を表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「**->**」プロンプトを表示します。
- 3 「**->**」プロンプトに続けて、モジュールの設置場所を入力し、**[Enter]** キーを押します。

モジュールの設置場所には 1 ～ 20 文字の半角英数字と記号が使用できます。



モジュールの設置場所を削除して、デフォルトの状態に戻すには、「->」プロンプトに続けて（すでに設定してある名前の上から）`[スペース]`を入力し、`[Enter]`キーを押します。

Module Information

SFP の詳細な情報を表示します。

 **43 ページ** 「SFP の詳細な情報」

Vendor Information

SFP ベンダーの詳細な情報を表示します。

 **44 ページ** 「SFP ベンダーの詳細な情報」

Module Status

ラインカードのステータスを変更します。

- 1 「Module Status」の頭文字 `[M]` キーを押して、「Enabled」の文字をハイライト表示します。
- 2 `[Enter]` キーを押します。表示が「Disabled」に変わります。

ラインカードのステータス

Enabled ローカルポート、リモートポートの通信を有効にします。

Disabled ローカルポート、リモートポートの通信を無効にします。

Port Status

SFP ポートのステータスを変更します。

- 1 「Port Status」の頭文字 `[P]` キーを押して、「Enabled」の文字をハイライト表示します。
- 2 `[Enter]` キーを押します。表示が「Disabled」に変わります。

SFP ポートのステータス

Enabled SFP ポートの通信を有効にします。

Disabled SFP の通信を無効にします。

3.1 モジュール情報と設定

Line Card Mode of Operation

ラインカードの動作モードの設定をします。

 45 ページ 「ラインカードの動作モードの設定」

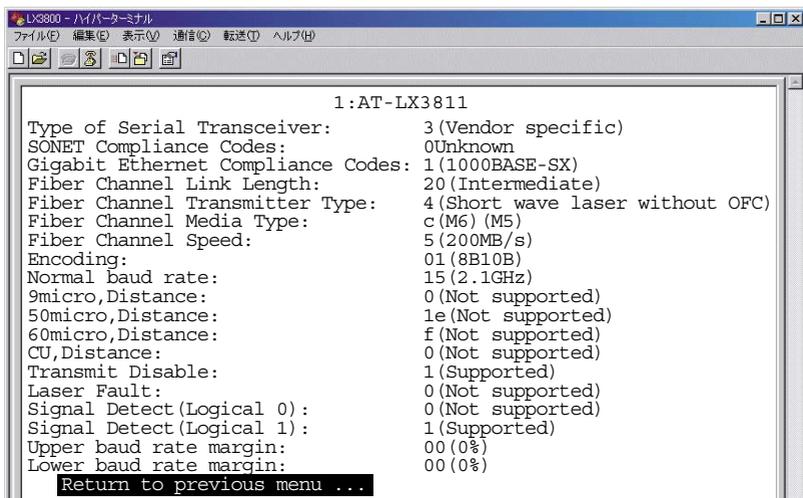


注意

ラインカードの状態と設定を確認する場合は、ラインカード、SFP、またはケーブルの抜き差しをしてから 10 秒程度間隔を空けてください。ラインカード、SFP、またはケーブルの抜き差しを繰り返したあとに本画面を表示させるとコンソールがハングアップすることがあります。コンソールがハングアップした場合は、本製品の電源を一旦オフにした後、再度オンにするか、本体全面右側のリセットボタンを押して、マネージメントソフトウェアを再起動してください。

SFP の詳細な情報

[Main Menu] -> [Module Status and Configuration Menu] -> [AT-LX3811] -> [Module Information] と進み、次の画面を表示します。



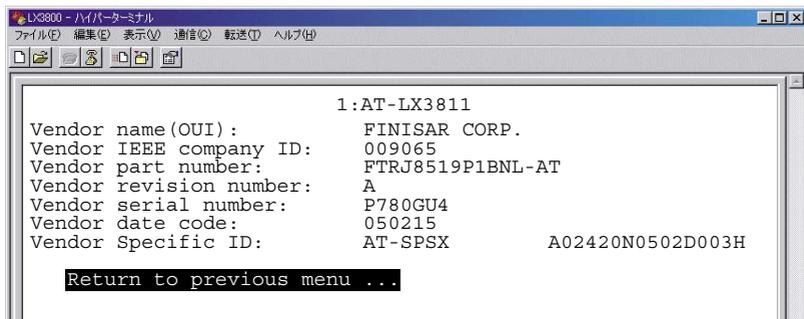
```
1:AT-LX3811
Type of Serial Transceiver:      3 (Vendor specific)
SONET Compliance Codes:         0Unknown
Gigabit Ethernet Compliance Codes: 1(1000BASE-SX)
Fiber Channel Link Length:      20 (Intermediate)
Fiber Channel Transmitter Type:  4 (Short wave laser without OFC)
Fiber Channel Media Type:       c (M6) (M5)
Fiber Channel Speed:           5 (200MB/s)
Encoding:                       01 (8B10B)
Normal baud rate:               15 (2.1GHz)
9micro,Distance:                0 (Not supported)
50micro,Distance:               1e (Not supported)
60micro,Distance:               f (Not supported)
CU,Distance:                    0 (Not supported)
Transmit Disable:                1 (Supported)
Laser Fault:                     0 (Not supported)
Signal Detect (Logical 0):       0 (Not supported)
Signal Detect (Logical 1):       1 (Supported)
Upper baud rate margin:          00 (0%)
Lower baud rate margin:          00 (0%)
Return to previous menu ...
```

SFP の詳細な情報を表示しています。

3.1 モジュール情報と設定

SFP ベンダーの詳細な情報

[Main Menu] -> [Module Status and Configuration Menu] -> [AT-LX3811] -> [Vendor Information] と進み、次の画面を表示します。



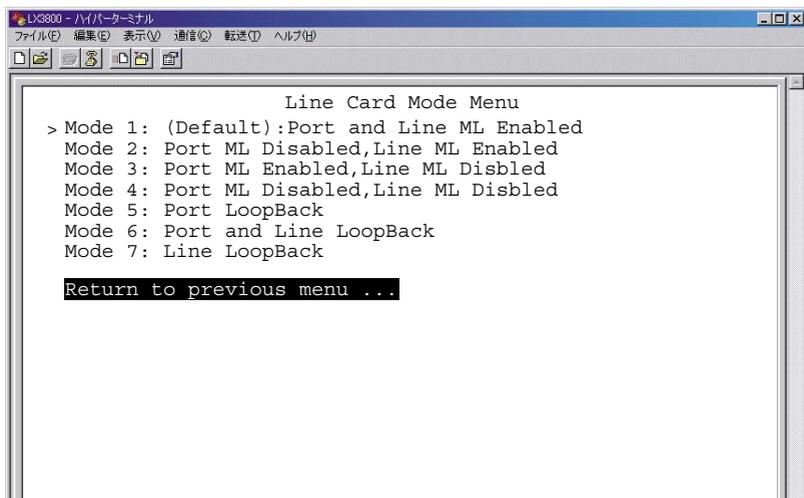
```
LX3800 - ハイパーターミナル
ファイル(F)  編集(E)  表示(V)  通信(C)  転送(D)  ヘルプ(H)
[Icons]
1:AT-LX3811
Vendor name (OUI):      FINISAR CORP.
Vendor IEEE company ID: 009065
Vendor part number:    FTRJ8519P1BNL-AT
Vendor revision number: A
Vendor serial number:  P780GU4
Vendor date code:      050215
Vendor Specific ID:    AT-SPSX           A02420N0502D003H

Return to previous menu ...
```

SFP ベンダーの詳細な情報を表示します。

ラインカードの動作モードの設定

[Main Menu] -> [Module Status and Configuration Menu] -> [AT-LX3811] -> [Line Card Mode of Operation] と進み、「Line Card Mode Menu」画面を表示します。



ラインカードの動作モードの設定をします。

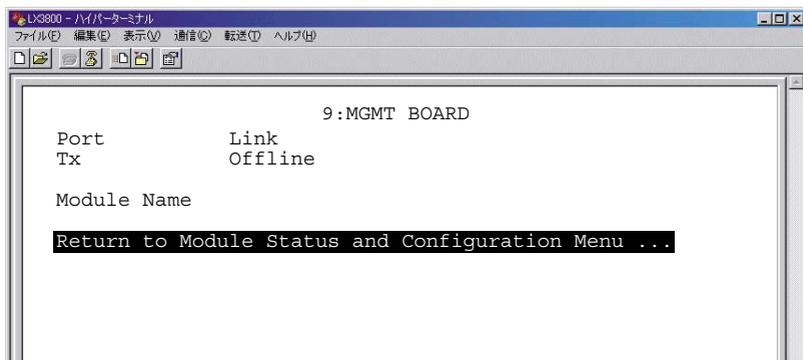
光信号に対してどんな応答をするか、7つの動作モードから選択することができます。

3.1 モジュール情報と設定

Mode No.	ローカルポート	リモートポート	動作
ミッシングリンク機能			
1	有効	有効	ローカルポート、リモートポートのどちらかのリンクが切断されたとき、もう一方のリンクも切断します。
2	無効	有効	ローカルポートのリンクが切断されたとき、リモートポートのリンクも切断します。 リモートポートのリンクが切断されたとき、ローカルポートの信号はループバックして、リンクを維持します。
3	有効	無効	ローカルポートのリンクが切断されたとき、リモートポートの信号はループバックして、リンクを維持します。 リモートポートのリンクが切断されたとき、ローカルポートのリンクも切断します。
4	無効	無効	ローカルポート、リモートポートのどちらかのリンクが切断されたとき、もう一方のポートからの信号はループバックして、リンクを維持します。
ループバック機能			
5	有効	—	ローカルポートの RX 信号をローカルポートとリモートポートの両方の TX ポートに再生成します。 リモートポートに受信した信号は破棄します。
6	有効	有効	ローカルポート、リモートポートの RX 信号をそれぞれの TX ポートに再生成します。
7	—	有効	リモートポートの RX 信号をローカルポートとリモートポートの両方の TX ポートに再生成します。 ローカルポートの RX 信号は破棄します。

マネージメントモジュールの状態

[Main Menu] -> [Module Status and Configuration] -> [MGMT BOARD] と進み、次の画面を表示します。



TX

マネージメントポートのリンクの状態を表示します。

Offline	マネージメントポートがネットワークやローカルのコンピューターに接続していません。
Online	マネージメントポートがネットワークやローカルのコンピューターに接続しています。

Module Name

マネージメントモジュールの名前を設定します。

- 1 「Module Name」の頭文字 **[M]** キーを押して、「Module Name」の右側に「_」を表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて、モジュールの名前を入力し、**[Enter]** キーを押します。モジュール名には 1～20 文字の半角英数字と記号が使用できます。

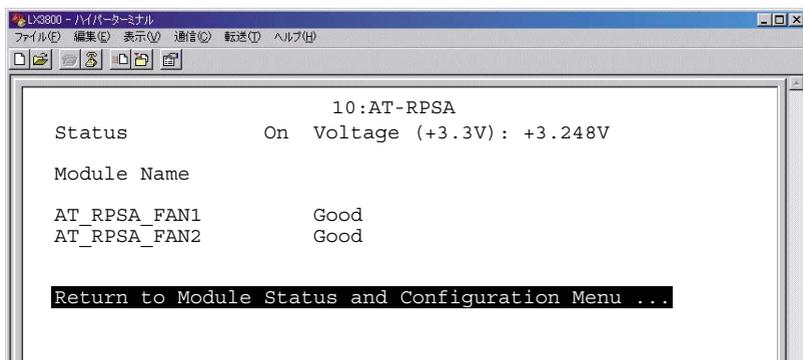


モジュール名を削除して、デフォルトの状態に戻すには、「->」プロンプトに続けて（すでに設定してある名前の上から）**[スペース]**を入力し、**[Enter]** キーを押します。

3.1 モジュール情報と設定

電源ユニットの状態

[Main Menu] -> [Module Status and Configuration] -> [AT-RPSA] と進み、次の画面を表示します。



Status

電源ユニットの状態を表示します。

On	電源ユニットは正常に動作しています。
Off	電源ユニットの電源が入っていません。

Voltage

電源ユニットからの DC3.3V 電源の供給電圧を表示します。

Module Name

電源ユニットの名前を設定します。

- 1 「[Module Name]」の頭文字 **[M]** キーを押して、「[Module Name]」の右側に「**_**」を表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「**->**」プロンプトを表示します。
- 3 「**->**」プロンプトに続けて、電源ユニットの名前を入力し、**[Enter]** キーを押します。電源ユニット名には 1 ~ 20 文字の半角英数字と記号が使用できます。

 電源ユニット名を削除して、デフォルトの状態に戻すには、「->」プロンプトに続けて（すでに設定してある名前の上から）`[スペース]`を入力し、`[Enter]`キーを押します。

AT_RPSA_FAN1/AT_RPSA_FAN2

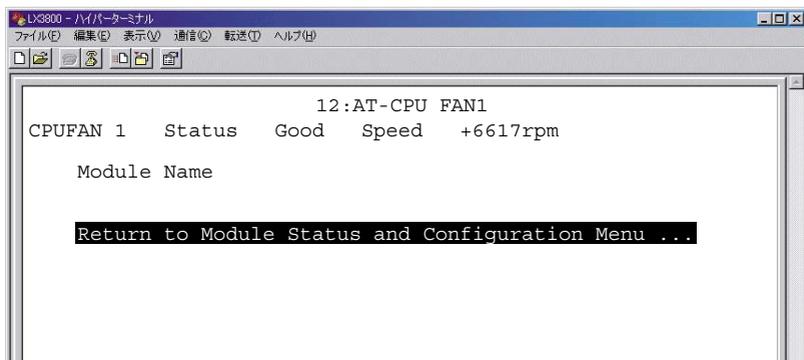
電源ユニット内のファンの状態を表示します。

Good	ファンが正常に動作しています。
Failed	ファンに異常が発生しています。

3.1 モジュール情報と設定

ファンの状態

[Main Menu] -> [Module Status and Configuration] -> [AT-CPU FAN1] と進み、次の画面を表示します。



Status

ファンの状態を表示します。

Good	ファンが正常に動作しています。
Failed	ファンに異常が発生しています。

Speed

ファンの回転数を表示します。

Module Name

ファンモジュールの名前を設定します。

- 1 「Module Name」の頭文字 **[M]** キーを押して、「Module Name」の右側に「_」を表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて、モジュールの名前を入力し、**[Enter]** キーを押します。モジュール名には 1～20 文字の半角英数字と記号が使用できます。



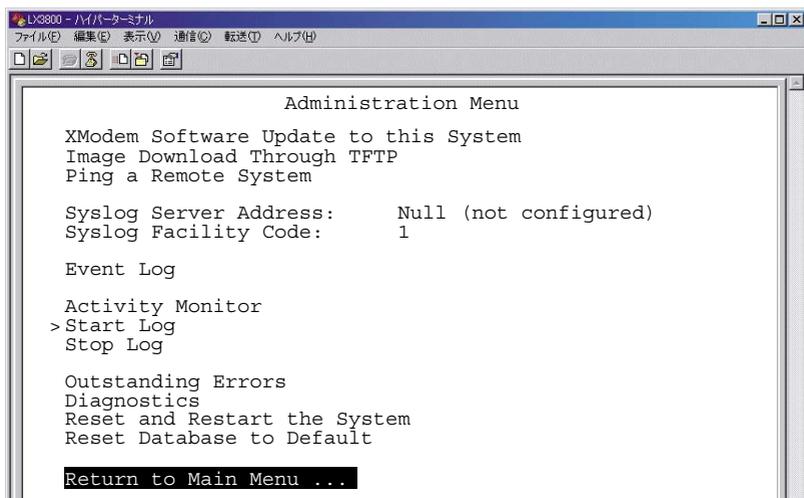
モジュール名を削除して、デフォルトの状態に戻すには、「->」プロンプトに続けて（すでに設定してある名前の上から）`[スペース]`を入力し、`[Enter]`キーを押します。

ヒント

3.2 システム管理

システム管理

[Main Menu] -> [Administration] と進み、「Administration Menu」画面を表示します。



ファームウェアのダウンロード、ログの表示、エラーの表示、再起動などシステム管理を行います。

XModem Software Update to this System

XModem を使ってファームウェアをダウンロードします。

 [55 ページ](#) 「コンソールポート経由でのダウンロード」

Image Download Through TFTP

TFTP を使ってファームウェアをダウンロードします。

 [57 ページ](#) 「ネットワーク経由でのダウンロード」

Ping a Remote System

指定したアドレスに対して PING テストを実行します。

 [59 ページ](#) 「PING テストの実行」

Syslog Server Address

ログを送信する syslog サーバーの IP アドレスを設定します。

- 1 「Syslog Server Address」の頭文字 **[S]** キーを押して、「Null (not configured)」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて syslog サーバーの IP アドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。
IP アドレスは X.X.X.X の形式で、X が 0 ～ 255 までの半角数字を使用し設定します。



syslog サーバーの IP アドレスを削除して、「Null (not configured)」に戻すには、「->」プロンプトに続けて 0.0.0.0 と入力し、**[Enter]** キーを押します。

Syslog Facility Code

ログメッセージのファシリティを設定します。

- 1 「Syslog Facility Code」の頭文字 **[S]** キーを押して、「1」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてファシリティを入力し、**[Enter]** キーを押します。
ファシリティは 0 ～ 23 までの半角数字を使用します。デフォルトでは 1 に設定されています。

Event Log

ログメッセージを表示します。

 **参照** 60 ページ 「イベントログの表示と消去」

Activity Monitor

ログメッセージを表示します。

 **参照** 63 ページ 「アクティブモニター」

アクティブモニターはデフォルトで「Start Log」に設定されています。ここでは「Stop Log」に設定します。

3.2 システム管理

- 1 「Stop Log」の頭文字 **S** キーを押して、「Stop Log」の文字をハイライト表示します。
- 2 **Enter** キーを押します。

Start Log	アクティブモニターをスタートします。
-----------	--------------------

Stop Log	アクティブモニターをストップします。
----------	--------------------

Outstanding Errors

ハードウェアのエラーを表示します。

 64 ページ 「ハードウェアのエラー」

Diagnostics

本製品、ラインカードの診断画面とファームウェアのバージョンを表示します。

 65 ページ 「診断画面とバージョンの表示」

Reset and Restart the System

本製品を再起動します。

 70 ページ 「本製品の再起動」

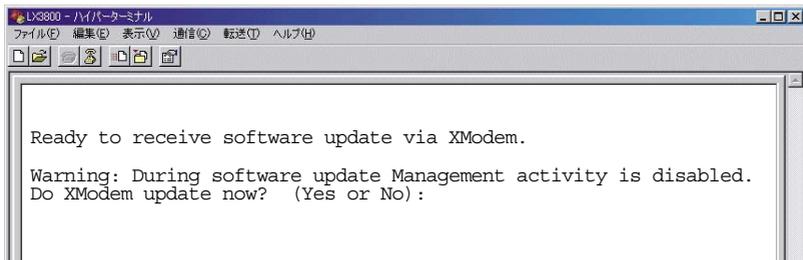
Reset Database to Default

日付と時刻以外のすべての設定をご購入時の状態に戻します。

 71 ページ 「設定をご購入時の状態に戻す」

コンソールポート経由でのダウンロード

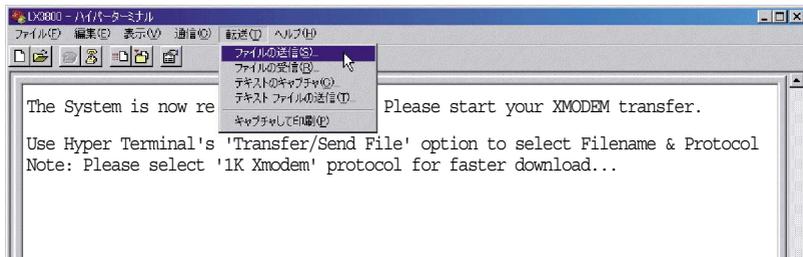
[Main Menu] -> [Administration] -> [XModem Software Update to this System]と進み、次の画面を表示します。



- 1 ダウンロードをはじめするには [Y] キーを押します。[Y] キーを押すと下のメッセージが表示します。
[N] キーを押すと「Administration Menu」に戻ります。



- 2 ハイパーターミナルを使用してファイルを転送します。
ハイパーターミナルのメニューから [転送] -> [ファイルの送信] を選択します。

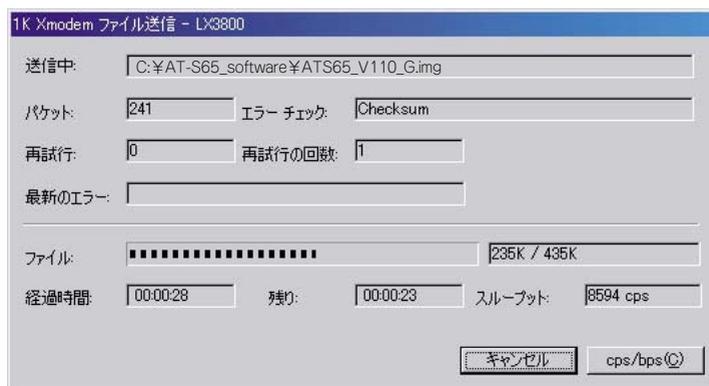


3.2 システム管理

- 3 転送するファイルを指定し、プロトコルは「1K Xmodem」を選択します。



- 4 「送信」を押すと、ファイルのダウンロードを開始します。



ファームウェアのダウンロードが終わると自動的に再起動します。

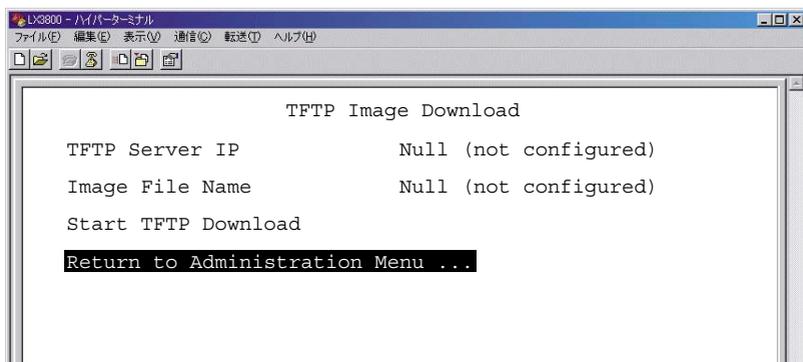


ファームウェアのダウンロードに失敗したときも自動的に再起動します。

ヒント

ネットワーク経由でのダウンロード

[Main Menu] -> [Administration] -> [Image Download Through TFTP] と進み、「TFTP Image Download」画面を表示します。



TFTP Server IP

TFTP サーバーの IP アドレスを設定します。

- 1 「TFTP Server IP」の頭文字 **[T]** キーを押して、「Null (not configured)」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて TFTP サーバーの IP アドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。
IP アドレスは X.X.X.X の形式で、X が 0 ~ 255 までの半角数字を使用し設定します。



TFTP サーバーの IP アドレスを削除して、「Null (not configured)」に戻すには、「->」プロンプトに続けて 0.0.0.0 と入力し、**[Enter]** キーを押します。

Image File Name

ダウンロードするファームウェアを指定します

3.2 システム管理

- 1 「Image File Name」の頭文字 [I] キーを押して、「Null (not configured)」の文字をハイライト表示します。
- 2 [Enter] キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてファイル名を入力し、[Enter] キーを押します。



ファイル名には 16 文字までの半角英数字と記号が使用できません。
ヒント

Start TFTP Download

ダウンロードを開始します。

- 1 「Start TFTP Download」の頭文字 [S] キーを押して、「Start TFTP Download」の文字をハイライト表示します。
- 2 [Enter] キーを押すとファイルのダウンロードを開始し、次の画面を表示します。

```
LX3800 - ハイパーターミナル
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 通信(C) 転送(D) ヘルプ(H)

TFTP Download in progress... Please wait!
Performing CRC check on Boot Loader. Please wait...
Boot Loader CRC check PASSED.

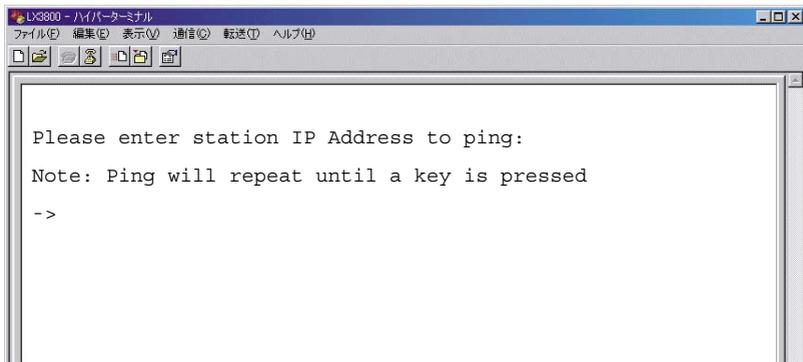
The Downloading Boot Loader version is same as current version v1.1.0
Skipping this download...
Performing CRC check on Application Image. Please wait...
Application Image CRC check PASSED.
Writing ATS65 to Flash, please wait...
Written 65536 bytes, 26% completed
Written 131072 bytes, 52% completed
Written 196608 bytes, 79% completed
Written 248303 bytes, 100% completed
Download Summary:
Boot Loader Download: NO
Image Download: YES

Load completed.
Rebooting...
```

ファームウェアのダウンロードが終わると自動的に再起動します。

PING テストの実行

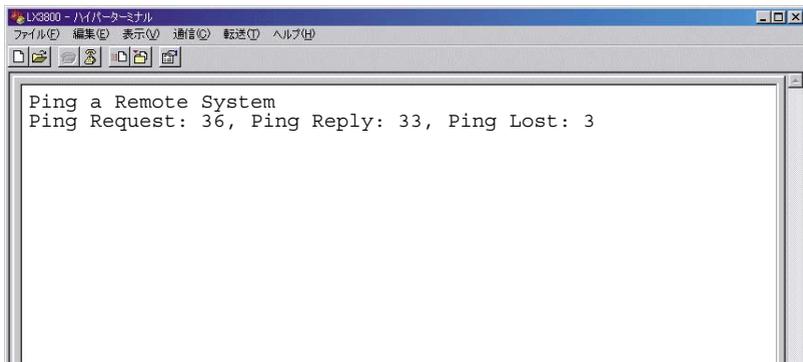
[Main Menu] -> [Administration] -> [Ping a Remote System] と進み、下の画面を表示します。



指定したシステムに対して Ping テストを実行します。

PING を実行する

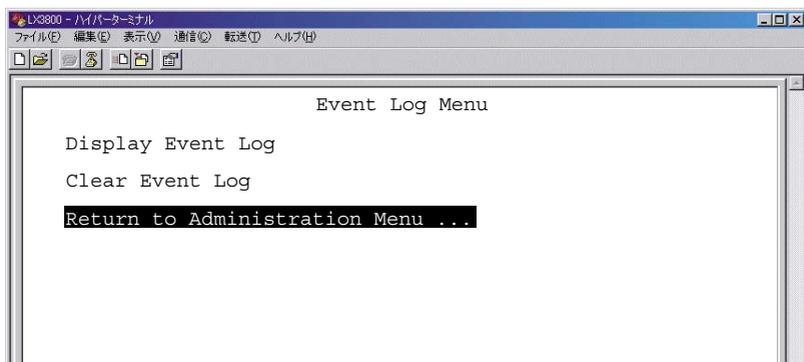
- 1 「->」プロンプトに続けて IP アドレスを入力します。
IP アドレスは X.X.X.X の形式で、X が 0 ～ 255 までの半角数字を使用し指定します。
- 2 **[Enter]** キーを押すと PING を実行し、結果を表示します。



3.2 システム管理

イベントログの表示と消去

[Main Menu] -> [Administration] -> [Event Log] と進み、「Event Log Menu」画面を表示します。



イベントログの表示と消去を行います。

Display Event Log

イベントログを表示します。

 61 ページ 「イベントログの表示」

Clear Event Log

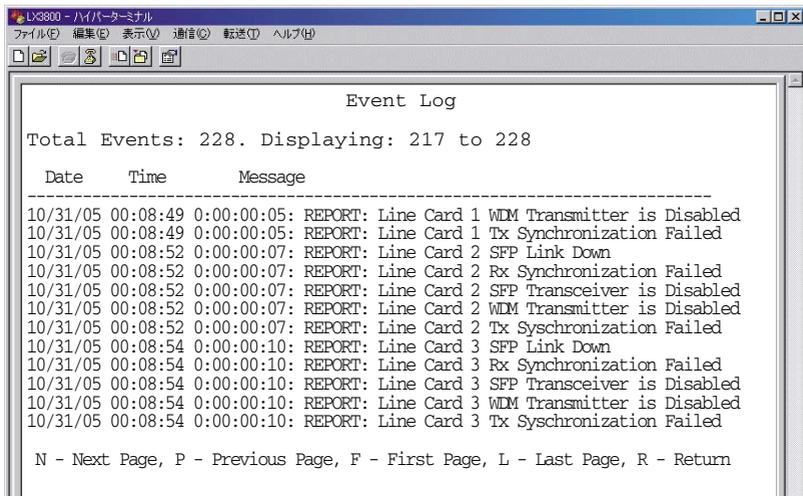
保存されているログを消去します。

- 1 「Clear Event Log」の頭文字 **C** キーを押して、「Clear Event Log」の文字をハイライト表示します。
- 2 **Enter** キーを押すと、次のメッセージが表示され、ログが消去されます。

```
Please wait while the event log is cleared...Done!  
Press any key to continue ...
```

イベントログの表示

[Main Menu] -> [Administration] -> [Event Log] -> [Display Event Log] と進み、「Event Log」画面を表示します。



Total Events

イベントログに保存されているイベントの総数を表示します。

Displaying

現在、画面に表示されているイベントログの範囲を示しています。

Data and Time

ログメッセージの生成日時を表示します。

Message

製品の稼働時間とイベントログメッセージを表示します。

稼働時間の表示形式は「D:H:M:S」（日:時:分:秒）です。

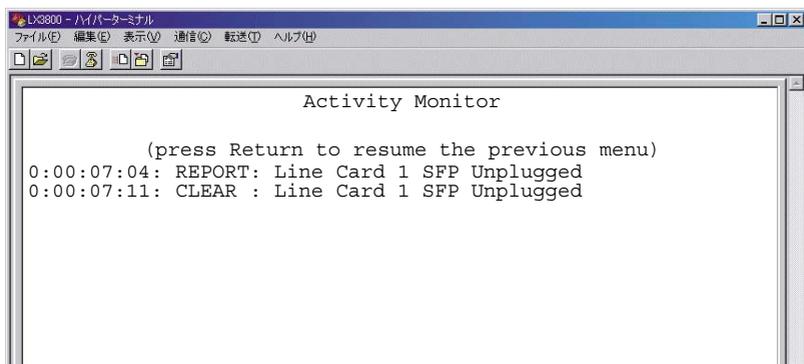
3.2 システム管理

イベント	説明
Chassis Temperature Exceed High Limit	製品温度が設定値を越えています。
Fan Module n Failed	ファンが正常に動作していません。
Line Card n Missing	ラインカードが装着していません。
Line Card n RX Synchronization Failed	ラインカードのRXポートが同期に失敗しました。
Line Card n SFP Link Down	ローカルポートのリンクが切断されました。
Line Card n SFP Port Shutdown	SFPポートがシャットダウンされました。
Line Card n SFP Rate Changed	ラインカードの伝送速度が変わりました。
Line Card n SFP Temperature Exceed High Limit	SFPの温度が設定値を越えています。
Line Card n SFP Transceiver is Disabled	SFPのTXポートが無効に設定されています。
Line Card n SFP Unplugged	ラインカードにSFPが装着されていません。
Line Card n Temperature Exceed High Limit	ラインカードの温度が設定値を越えています。
Line Card n TX Synchronization Failed	ラインカードのTXポートが同期に失敗しました。
Line Card n Wavelength Mismatch	ラインカードとスロットが対応していません。
Line Card n WDM Channel Down	ラインカードのリモートポート側のリンクが切断されました。
Line Card n WDM Port Shutdown	ラインカードがシャットダウンされました。
Line Card n WDM Transmitter is Disabled	ラインカードのTXポートが無効に設定されています。
Power Module n Failed	電源ユニットが正常に動作していません。
Power Module n Inserted	電源ユニットが装着されました。
Power Module n Remove	電源ユニットが取り外されました。
System Cold Reboot	製品がハードウェアリセットを実行しました。

※ n はモジュール番号を表します。

アクティブモニター

[Main Menu] -> [Administration] -> [Activity Monitor] と進み、「Activity Monitor」画面を表示します。



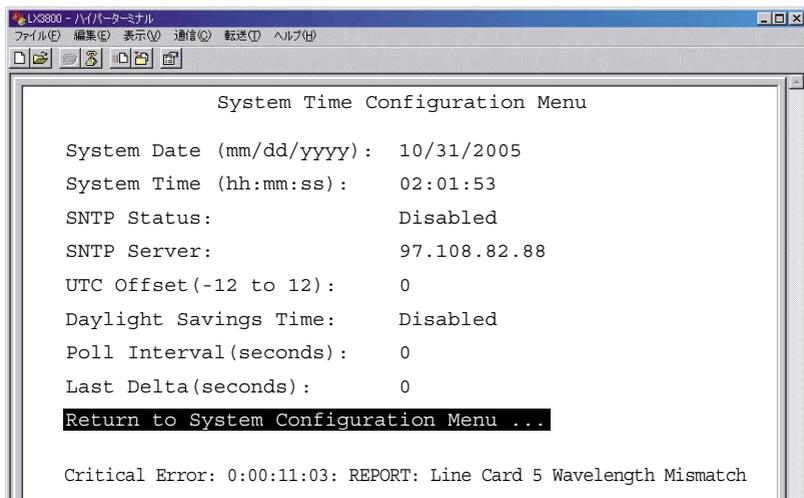
起動時から現在までの本製品の動作や本製品に対する設定（ログ）がメッセージ（英数字）で表示されます。最大 256 のログを参照できますが、一度参照した内容は次回参照時には表示されません。メッセージの内容はイベントログと同じです。

 **61** ページ 「イベントログの表示」

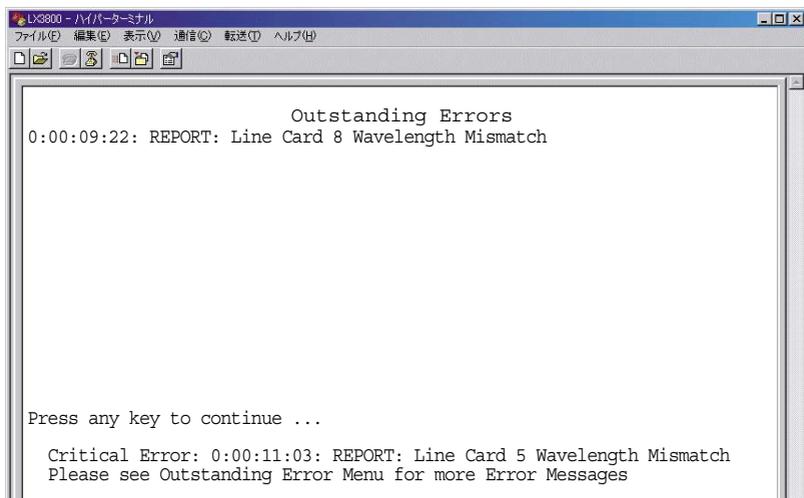
3.2 システム管理

ハードウェアのエラー

最新のハードウェアのエラーはすべての画面の一番下に表示されます。

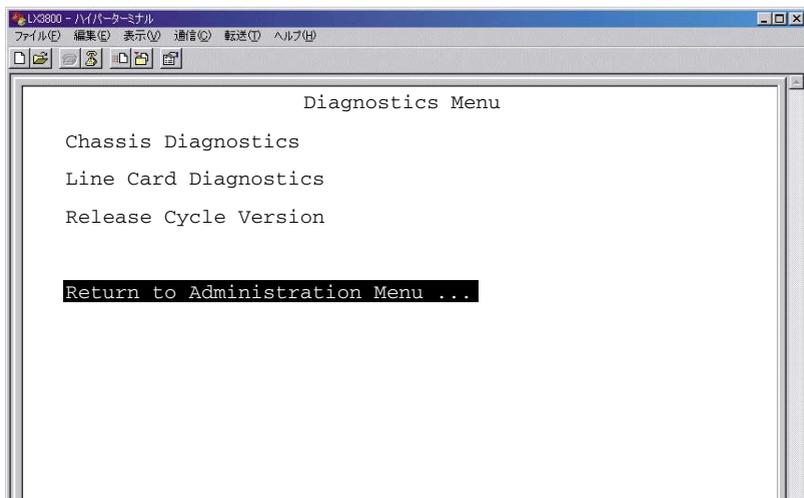


すべてのハードウェアのエラーを参照するには「Outstanding Errors」画面を表示します。
[Main Menu] -> [Administration] -> [Outstanding Errors]と進み、「Outstanding Errors」画面を表示します。



診断画面とバージョンの表示

[Main Menu] -> [Administration] -> [Diagnostics] と進む、「Diagnostics Menu」画面を表示します。



Chassis Diagnostics

本製品の診断画面を表示します。

 66 ページ 「本製品の診断」

Line Card Diagnostics

ラインカードの診断画面を表示します。

 68 ページ 「ラインカードの診断」

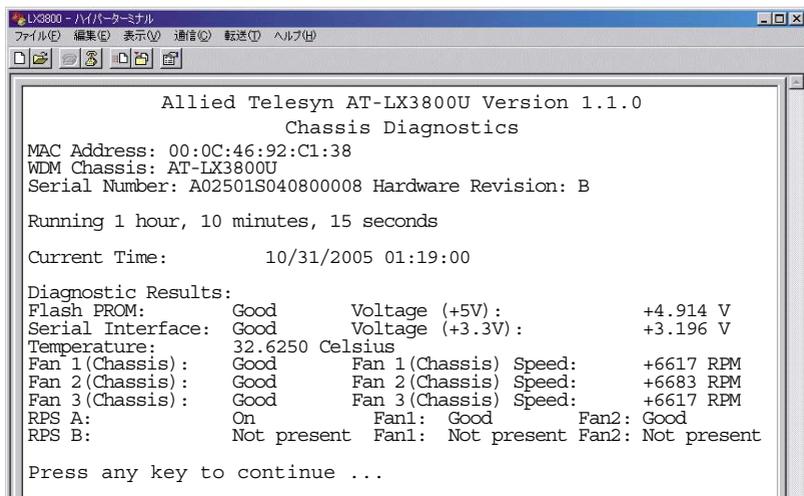
Release Cycle Version

ファームウェアのサイクルバージョンを表示します。

3.2 システム管理

本製品の診断

[Main Menu] -> [Administration] -> [Diagnostics] -> [Chassis Diagnostics] と進み、「Chassis Diagnostics」画面を表示します。



```
Allied Telesyn AT-LX3800U Version 1.1.0
Chassis Diagnostics
MAC Address: 00:0C:46:92:C1:38
WDM Chassis: AT-LX3800U
Serial Number: A02501S040800008 Hardware Revision: B

Running 1 hour, 10 minutes, 15 seconds
Current Time:          10/31/2005 01:19:00

Diagnostic Results:
Flash PROM:           Good      Voltage (+5V):         +4.914 V
Serial Interface:     Good      Voltage (+3.3V):      +3.196 V
Temperature:          32.6250 Celsius
Fan 1(Chassis):       Good      Fan 1(Chassis) Speed: +6617 RPM
Fan 2(Chassis):       Good      Fan 2(Chassis) Speed: +6683 RPM
Fan 3(Chassis):       Good      Fan 3(Chassis) Speed: +6617 RPM
RPS A:                On        Fan1: Good            Fan2: Good
RPS B:                Not present Fan1: Not present     Fan2: Not present

Press any key to continue ...
```

Flash PROM の状態、電源ユニットの電圧とファンの状態、ファンモジュールの状態を表示します。

MAC Address

本製品の MAC アドレスを表示します。

WDM Chassis

製品の名称を表示します。

Serial Number

製品のシリアル番号を表示します。

Hardware Revision

本製品のハードウェアリビジョンを表示します。

Running

稼働時間（前回リポートしてからの時間）を表示します。

Current Time

現在の日付と時間を表示します。

Flash PROM

PROMの状態を表示します。

Serial Interface

マネージメントモジュールの状態を表示します。

Voltage (+5V) /Voltage (+3.3V)

電源ユニットからの DC5V、DC3.3V 電源の供給電圧を表示します。

Fan 1/Fan 2/Fan 3 (Chassis)

ファンモジュールのファンの状態を表示します。

ファンの状態

Good	ファンが正常に動作しています。
------	-----------------

Failed	ファンに異常が発生しています。
--------	-----------------

Fan 1/Fan 2/Fan 3 (Chassis) Speed

ファンモジュールのファンの回転数を表示します。

RPS A、RPS B

電源ユニットと電源ユニット内のファンの状態を表示します。

On	電源ユニットが正常に動作しています。
----	--------------------

Off	電源ユニットの電源が入っていません。
-----	--------------------

Not present	電源ユニットが装着されていません。
-------------	-------------------

Fan1/Fan2

Good	ファンが正常に動作しています。
------	-----------------

Failed	ファンに異常が発生しています。
--------	-----------------

Off	電源ユニットの電源が入っていません。
-----	--------------------

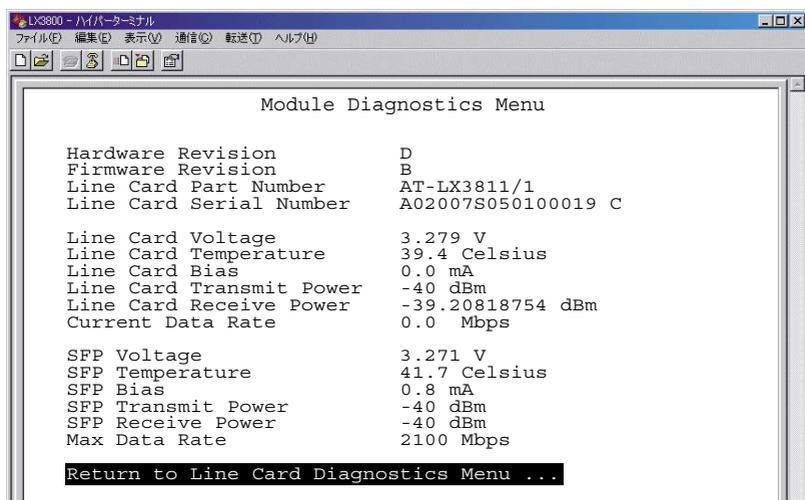
Not present	電源ユニットが装着されていません。
-------------	-------------------

3.2 システム管理

ラインカードの診断

[Main Menu] -> [Administration] -> [Diagnostics] -> [Line Card Diagnostics] と進み、「Line Card Diagnostics Menu」画面を表示します。

①～⑧ キーと [Enter] キーを押し、情報を表示するラインカードを選択します。



Hardware Revision

ラインカードのハードウェアリビジョンを表示します。

Firmware Revision

ラインカードのファームウェアリビジョンを表示します。

Line Card Part Number

ラインカードのパート番号を表示します。

Line Card Serial Number

ラインカードのシリアル番号を表示します。

Line Card Voltage

ラインカードへの供給電圧を表示します。

Line Card Temperature

ラインカードの現在の温度を表示します。

Line Card Bias

ラインカードの光送信素子のバイアス電流値を表示します。

Line Card Transmit Power

ラインカードの送信光レベルを表示します。(誤差± 2dBm)

Line Card Receive Power

ラインカードの受信光レベルを表示します。(-24dBm 未満の場合、誤差± 2dBm)

Current Data Rate

ラインカードの伝送速度を表示します。

SFP Voltage

SFP の現在の電圧を表示します。

SFP Temperature

SFP の現在の温度を表示します。

SFP Bias

SFP の光送信素子のバイアス電流値を表示します。

SFP Transmit Power

SFP の送信光レベルを表示します。

SFP Receive Power

SFP の受信光レベルを表示します。

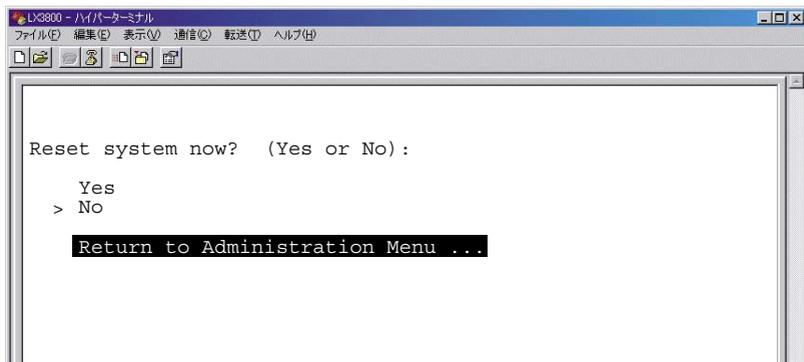
Max Data Rate

SFP の最大伝送速度を表示します。

3.2 システム管理

本製品の再起動

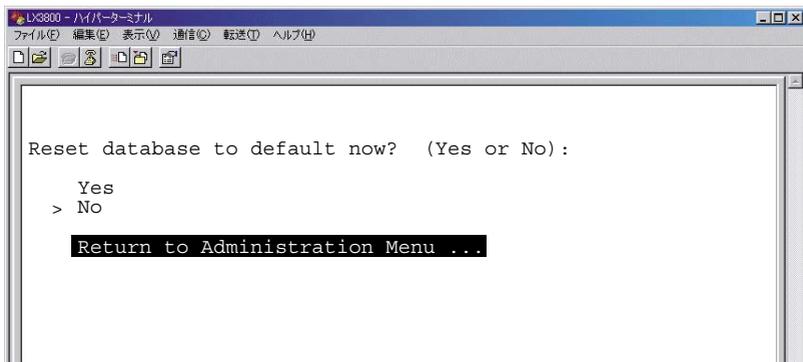
[Main Menu] -> [Administration] -> [Reset and Restart the System] と進み、下の画面を表示します。



- 1 「Yes」の頭文字 **[Y]** キーを押して、「Yes」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押すと、本製品が再起動します。

設定をご購入時の状態に戻す

[Main Menu] -> [Administration] -> [Reset Database to Default] と進み、下の画面を表示します。



- 1 「Yes」の頭文字 **Y** キーを押して、「Yes」の文字をハイライト表示します。
- 2 **Enter** キーを押すと、下のメッセージが表示され、再起動します。

Database has been reset to default, now rebooting the system ...



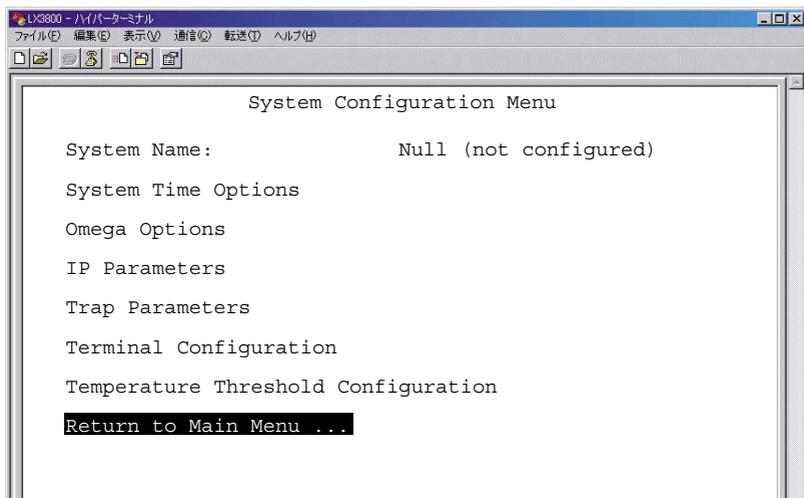
システムの日付と時刻はご購入時の設定に戻りません。

ヒント

3.3 システム設定

モジュール情報の表示

[Main Menu] -> [System Configuration] と進み、「System Configuration Menu」画面を表示します。



時間、IP アドレス、トラップなど本製品の基本的な設定を行います。

System Name

システムの名前を設定します。

- 1 「System Name」の頭文字 **[S]** キーを押して、「Null (not configured)」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてシステム名を入力し、**[Enter]** キーを押します。
システム名には 1～20 文字の半角英数字と記号が使用できます。



ヒント

システム名を削除して、「Null (not configured)」に戻すには、「->」プロンプトに続けて (すでに設定してある名前の上から) **[スペース]** を入力し、**[Enter]** キーを押します。

System Time Options

時刻の設定や SNTP の有効 / 無効、SNTP サーバーの設定を行います。

 [74 ページ](#) 「日付と時刻の設定」

Omega Options

ログイン時のパスワードの変更、セッションタイムアウトの設定、ローカル / リモートからのアクセスの有効 / 無効の設定を行います。

 [78 ページ](#) 「ログインとセッションタイムアウト」

IP Parameters

IP アドレスの設定、サブネットマスクの設定、ゲートウェイアドレスの設定、SNMP の設定、DHCP の有効 / 無効の設定を行います。

 [81 ページ](#) 「IP パラメーターと SNMP」

Trap Parameters

トラップを送信する SNMP マネージャーを設定します。

 [86 ページ](#) 「トラップパラメーター」

Terminal Configuration

コンソールポートの通信速度を設定します。

 [88 ページ](#) 「コンソールポートの通信速度」

Temperature Threshold Configuration

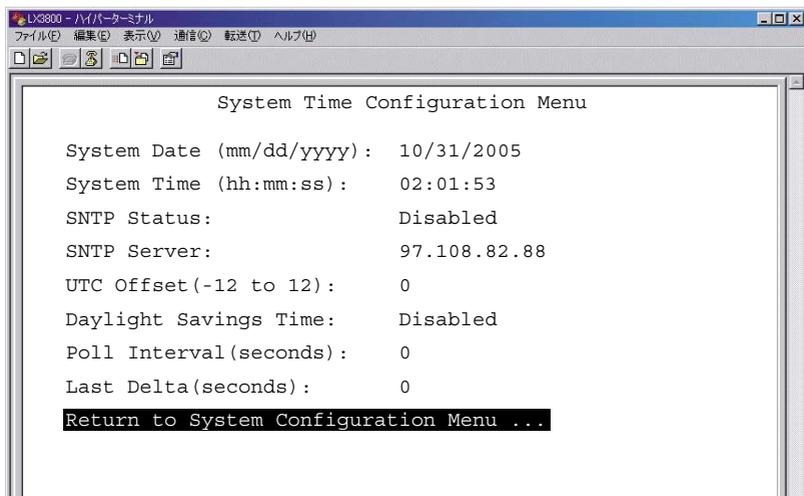
本製品、ラインカード、SFP の温度が、設定した値を超えたときにトラップを送信する、設定値を設定する。

 [89 ページ](#) 「温度トラップの設定」

3.3 システム設定

日付と時刻の設定

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [System Time Options] と進み、「System Time Configuration Menu」画面を表示します。



System Date

システムの内蔵時計の日付を設定します。

- 1 「System Date」の頭文字 **[S]** キーを押して、設定されている日付をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて日付を入力し、**[Enter]** キーを押します。
日付は mm/dd/yyyy の形式で指定します。



ヒント

システムの内蔵時計の日付は「Reset Database to Default」を実行しても、ご購入時の設定には戻りません。

System Time

システムの内蔵時計の時刻を設定します。

- 1 「System Time」の頭文字 **[S]** キーを押して、設定されている時刻をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて時刻を入力し、**[Enter]** キーを押します。
時刻は hh/mm/ss の形式で指定します。



システム内蔵時計の時刻は「Reset Database to Default」を実行しても、ご購入時の設定には戻りません。

SNTP Status

SNTP モジュールの有効 / 無効を変更します。

デフォルトでは「Disabled」に設定されているので、ここでは「Enabled」に設定します。

- 1 「SNTP Status」の頭文字 **[S]** キーを押して、「Disabled」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押すと、表示が「Enabled」に変わります。

Enabled	SNTP モジュールを有効にします。
---------	--------------------

Disabled	SNTP モジュールを無効にします。
----------	--------------------

SNTP Server

SNTP サーバーの IP アドレスを設定します。

SNTP サーバーの IP アドレスはデフォルトで「97.108.82.88」に設定されています。

- 1 「SNTP Server」の頭文字 **[S]** キーを押して、設定されている IP アドレスをハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。

3.3 システム設定

- 3 「->」プロンプトに続けて SNTP サーバーの IP アドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。
IP アドレスは X.X.X.X の形式で、X が 0 ～ 255 までの半角数字を使用し設定します。

UTC Offset

現地時間と協定世界時（UTC）の差を設定します。SNTP で扱われる時間はすべて UTC なので、必ずオフセットを設定する必要があります。
デフォルトでは「0」に設定されています。

- 1 「UTC Offset」の頭文字 **[0]** キーを押して、デフォルトで設定されている「0」をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてオフセットを入力し、**[Enter]** キーを押します。
オフセットは -12 ～ 12 までの数字で指定します。



日本標準時（JST）は UTC より 9 時間進んでいるので、「9」と設定してください。

ヒント

Daylight Savings Time

サマータイムの設定をします。
デフォルトでは「Disabled」に設定されているので、ここでは「Enabled」に設定します。

- 1 「Daylight Savings Time」の頭文字 **[D]** キーを押して、「Disabled」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押します。表示が「Enabled」に変わります。

Enabled	サマータイムを有効にします。
---------	----------------

Disabled	サマータイムを無効にします。
----------	----------------

Poll Interval

SNTP サーバーと同期をとる間隔を設定します。

- 1 「Poll Interval」の頭文字 **[P]** キーを押して、デフォルトで設定されている「0」をハイライト表示します。

- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて同期をとる間隔を秒単位で入力し、**[Enter]** キーを押します。
SNTP サーバーと同期をとる間隔は 60 ~ 1200 までの数字で指定します。

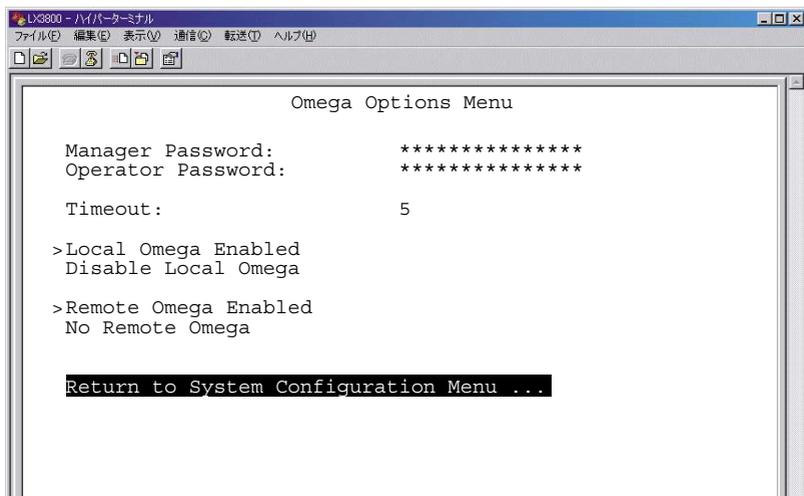
Last Delta

最終更新時の内蔵時計の修正量を表示します（SNTP を使用した場合のみ）。

3.3 システム設定

ログインとセッションタイムアウト

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [Omega Options] と進み、「Omega Options Menu」画面を表示します。



Manager Password

ユーザー名「manager」のパスワードを設定します。「manager」のパスワードはデフォルトで「friend」に設定されています。

- 1 「Manager Password」の頭文字 **[M]** キーを押して、「*****」の部分をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてパスワードを入力し、**[Enter]** キーを押します。
パスワードには 1～20 文字の半角英数字と記号が使用できます。

Operator Password

ユーザー名「operator」のパスワードを設定します。「operator」のパスワードはデフォルトで「operator」に設定されています。

- 1 「Operator Password」の頭文字 **[O]** キーを押して、「*****」をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてパスワードを入力し、**[Enter]** キーを押します。
パスワードには 1～20 文字の半角英数字と記号が使用できます。

Timeout

セッションのタイムアウトを設定します。デフォルトは 5（分）です。
タイムアウトは、設定した時間内にキー入力がない場合、セッションを自動的に終了する機能です。
「Quit」でログアウトし忘れた場合に、不当なアクセスを避けるためのセキュリティとして使用することができます。

- 1 「Timeout」の頭文字 **[T]** キーを押して、デフォルトで設定されている「5」をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてタイムアウトする時間を分単位で入力し、**[Enter]** キーを押します。
セッションタイムアウトは 0～32767 までの数字で指定します。



「0」に指定した場合は、セッションタイムアウトは無効になります。



タイムアウトが発生した場合は、「Disconnected...」というメッセージが表示されて、セッションが自動的に終了します。

Local Omega Enabled/Disable Local Omega

コンソールポートからのログイン制限を設定します。

Local Omega Enabled	ローカル (RS-232) から、本製品にログインすることができます。
Disable Local Omega	ローカル (RS-232) から、本製品にログインできなくなります。

デフォルトでは「Local Omega Enabled」に設定されているので、ここでは「Disable Local Omega」に設定します。

3.3 システム設定

1 「Disable Local Omega」の頭文字 **[D]** キーを押して、「Disable Local Omega」の文字をハイライト表示します。

2 **[Enter]** キーを押します。



ローカルからユーザーがログインしている場合、設定変更はユーザーがログアウトしたときに有効になります。

Remote Omega Enabled/No Remote Omega

リモート（Telnet）からのログイン制限を設定します。

Remote Omega Enabled	リモート（Telnet）から、本製品にログインすることができます。
No Remote Omega	リモート（Telnet）から、本製品にログインできなくなります。

デフォルトでは「Remote Omega Enabled」に設定されているので、ここでは「No Remote Omega」に設定します。

1 「No Remote Omega」の頭文字 **[N]** キーを押して、「No Remote Omega」の文字をハイライト表示します。

2 **[Enter]** キーを押します。



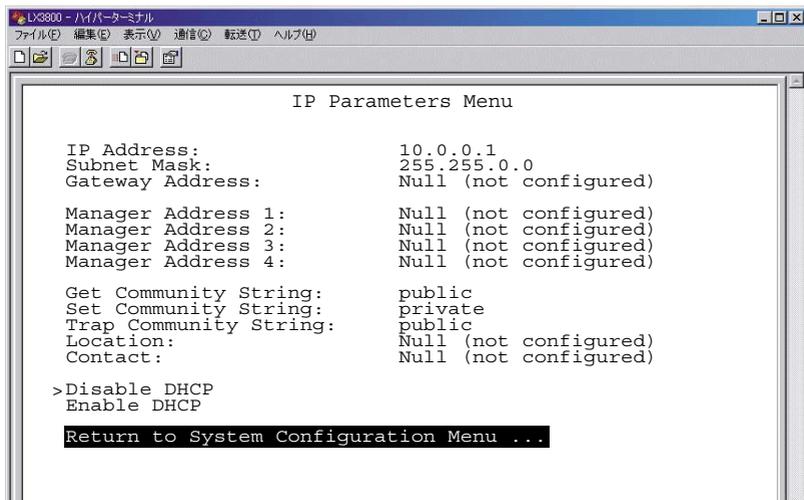
リモート（Telnet）からユーザーがログインしている場合、設定変更はリモートログインしているユーザーがすべてログアウトしたときに有効になります。



「Disable Local Omega」と「No Remote Omega」の両方を選択して、セッションを終了すると、本製品に再度ログインすることができなくなりますのでご注意ください。

IP パラメーターと SNMP

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [IP Parameters] と進み、「IP Parameters Menu」画面を表示します。



SNMP や Telnet で本製品を管理するための IP パラメーターの設定と SNMP の設定を行います。

IP Address

本製品の IP アドレスを設定します。

IP アドレスはデフォルトで「10.0.0.1」に設定されています。

- 1 「IP Address」の頭文字 **[H]** キーを押して、デフォルトで設定されている「10.0.0.1」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて IP アドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。
IP アドレスは X.X.X.X の形式で、X が 0 ~ 255 までの半角数字を使用し設定します。

3.3 システム設定

 リモート (Telnet) からユーザーがログインしている場合も、リモートログインしているユーザーのログアウトを待たずに IP アドレスの変更が有効になりますので、接続が切断されます。
ヒント IP アドレスの変更はコンソールから行ってください。

Subnet Mask

本製品のサブネットマスクを設定します。

サブネットマスクはデフォルトで「255.255.0.0」に設定されています。

- 1 「Subnet Mask」の頭文字 **[S]** キーを押して、デフォルトで設定されている「255.255.0.0」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてサブネットマスクを入力し、**[Enter]** キーを押します。
サブネットマスクは X.X.X.X の形式で、X が 0 ~ 255 までの半角数字を使用し設定します。

Gateway Address

本製品のゲートウェイアドレスを設定します。

- 1 「Gateway Address」の頭文字 **[G]** キーを押して、「Null (not configured)」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてゲートウェイアドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。
ゲートウェイアドレスは X.X.X.X の形式で、X が 0 ~ 255 までの半角数字を使用し設定します。

 ゲートウェイアドレスを削除して、「Null (not configured)」に戻すには、「->」プロンプトに続けて 0.0.0.0 と入力し、**[Enter]** キーを押します。
ヒント

Manager Address 1 ~ 4

SNMP で本製品を管理するための SNMP マネージャーの IP アドレスを設定します。

- 1 「Manager Address」の頭文字 **[M]** キーを押して、「Null (not configured)」の文字をハイライト表示します。

- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて SNMP マネージャーの IP アドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。
IP アドレスは X.X.X.X の形式で、X が 0 ～ 255 までの半角数字を使用し設定します。



SNMP マネージャーの IP アドレスを削除して、「Null (not configured)」に戻すには、「->」プロンプトに続けて 0.0.0.0 と入力し、**[Enter]** キーを押します。

Get Community String

Get に設定するコミュニティ名を設定します。
デフォルトで「public」に設定されています。

- 1 「Get Community String」の頭文字 **[G]** キーを押して、デフォルトで設定されている「public」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてコミュニティ名を入力し、**[Enter]** キーを押します。
コミュニティ名には 15 文字までの半角英数字が使用でき、大文字 / 小文字を区別します。

Set Community String

Set に設定するコミュニティ名を設定します。
デフォルトで「private」に設定されています。

- 1 「Set Community String」の頭文字 **[S]** キーを押して、デフォルトで設定されている「private」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてコミュニティ名を入力し、**[Enter]** キーを押します。
コミュニティ名には 15 文字までの半角英数字が使用でき、大文字 / 小文字を区別します。

3.3 システム設定

Trap Community String

Trap に設定するコミュニティ名を設定します。
デフォルトで「public」に設定されています。

- 1 「Trap Community String」の頭文字 **[T]** キーを押して、デフォルトで設定されている「public」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けてコミュニティ名を入力し、**[Enter]** キーを押します。
コミュニティ名には 15 文字までの半角英数字が使用でき、大文字 / 小文字を区別します。

Location

システムの設置場所を設定します。

- 1 「Location」の頭文字 **[L]** キーを押して、「Null (not configured)」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて、システムの設置場所を入力し、**[Enter]** キーを押します。
システムの設置場所には 1 ~ 38 文字の半角英数字と記号が使用できます。



システムの設置場所を削除して、「Null (not configured)」に戻すには、「->」プロンプトに続けて（すでに設定してある文字の上から）**[スペース]**を入力し、**[Enter]** キーを押します。

Contact

システム管理者を特定するための情報を設定します。

- 1 「Contact」の頭文字 **[C]** キーを押して、「Null (not configured)」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて、システム管理者の情報を入力し、**[Enter]** キーを押します。
システム管理者の情報には 1 ~ 39 文字の半角英数字と記号が使用できます。



システム管理者の情報を削除して、「Null (not configured)」に戻すには、「->」プロンプトに続けて（すでに設定してある文字の上から）`[スペース]`を入力し、`[Enter]`キーを押します。

Disable DHCP/Enable DHCP

DHCP クライアント機能の有効 / 無効を設定します。

Disable DHCP	DHCP クライアント機能を無効にします。
Enable DHCP	DHCP クライアント機能を有効にします。

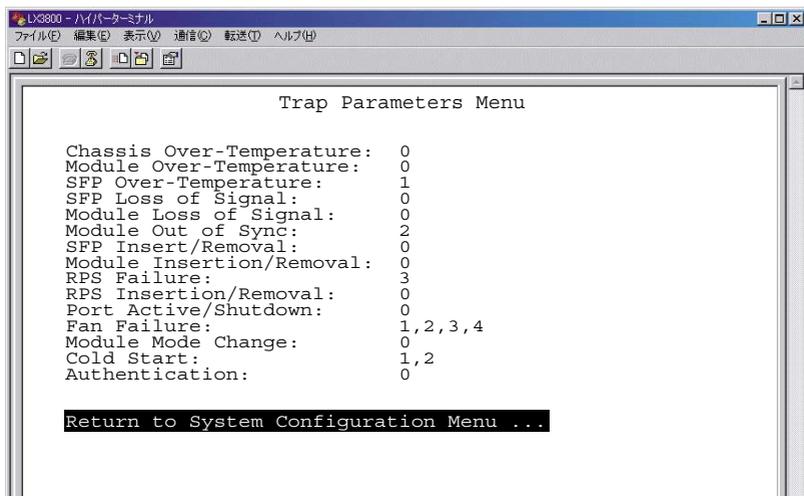
デフォルトでは「Disable DHCP」に設定されているので、ここでは「Enable DHCP」に設定します。

- 1 「Enable DHCP」の頭文字 `[E]` キーを押して、「Enable DHCP」の文字をハイライト表示します。
- 2 `[Enter]` キーを押します。

3.3 システム設定

トラップパラメーター

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [Trap Parameters] と進み、「Trap Parameters Menu」画面を表示します。



SNMP トラップごとに送信先の SNMP マネージャーを設定します。

各トラップの入力フィールドに表示されている数字は、「IPパラメーターとSNMP」 ([Main Menu] -> [System Configuration Menu] -> [IP Parameters]) で設定した「Manager Address 1」～「Manager Address 4」を意味しています。

 81 ページ 「IP パラメーターとSNMP」

デフォルトは「0」で、トラップを送信しないように設定されています。「all」を設定すると SNMP マネージャー 1～4 のすべてにトラップを送信することができます。

ここでは「Cold Start」発生時に SNMP マネージャー 1 と 2 にトラップを送信するように設定します。

1 「Cold Start」の頭文字 **C** キーを押して、デフォルトで設定されている「0」の文字をハイライト表示します。

2 **Enter** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。

- 3 「->」プロンプトに続けて、「1,2」と入力し、**[Enter]** キーを押します。
 複数のマネージャーを指定する場合は「1,2」のようにカンマで区切って指定します。

本製品がサポートする SNMP マネージャーは以下のとおりです。

トラップ名	内容
Chassis Over-Temperature	本製品内の温度が設定値を超えたときに発行
Module Over-Temperature	ラインカードの温度が設定値を超えたときに発行
SFP Over-Temperature	SFP の温度が設定値を超えたときに発行
SFP Loss of Signal	ローカルポート (SFP) がリンクダウン時に発行
Module Loss of Signal	リモートポートがリンクダウン時に発行
Module Out of Sync	リモートポートの対向機器と同期していないときに発行
SFP Insert/Removal	SFP の取り付け / 取り外し時に発行
Module Insert/Removal	ラインカードの取り付け / 取り外し時に発行
RPS Failure	リダンダント電源ユニットの電源供給異常時に発行
RPS Insert/Removal	リダンダント電源ユニットの取り付け / 取り外し時に発行
Port Active/Shutdown	ポートの有効 / 無効変更時に発行
Fan Failure	ファンモジュールの異常発生時に発行
Module Mode Change	ラインカードの動作モード変更時に発行
Cold Start	ハードウェアリセット時に発行
Authentication	Set に設定されているコミュニティ名が違うときに発行

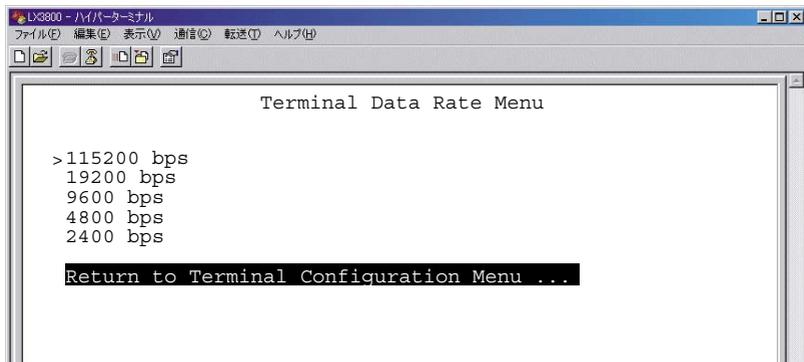
 89 ページ 「温度トラップの設定」

3.3 システム設定

コンソールポートの通信速度

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [Terminal Configuration] と進み、「Terminal Configuration Menu」画面を表示します。

「Data Rate」の頭文字 **[D]** キーを押して、「Data Rate (baud rate)」の文字をハイライト表示します。**[Enter]** キーを押し、「Terminal Data Rate Menu」画面を表示します。



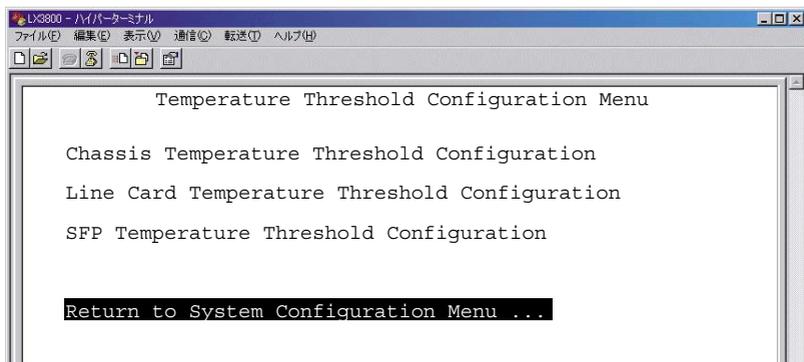
コンソールポートの通信速度を設定します。
デフォルトは「115200bps」に設定されています。

ここでは「9600bps」に設定します。

- 1 「9600bps」の頭文字 **[9]** キーを押して、「9600bps」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押します。

温度トラップの設定

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [Temperature Threshold Configuration] と進み、「Temperature Threshold Configuration Menu」画面を表示します。



Chassis Temperature Threshold Configuration

本製品の温度が設定した値を超えたとき、「Chassis Over-Temperature」トラップを送信する値を設定します。

 90 ページ 「Chassis Over-Temperature」トラップの設定

Line Card Temperature Threshold Configuration

ラインカードの温度が設定した値を超えたとき、「Module Over-Temperature」トラップを送信する値を確認、設定します。

 91 ページ 「Module Over-Temperature」トラップの設定

SFP Temperature Threshold Configuration

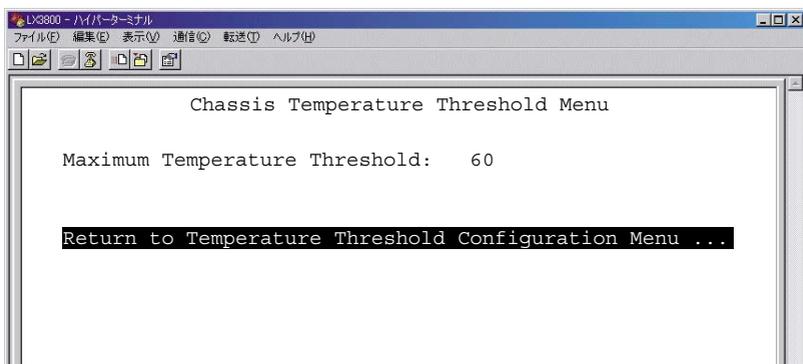
SFP の温度が設定した値を超えたとき、「SFP Over-Temperature」トラップを送信する値を確認、設定します。

 93 ページ 「SFP Over-Temperature」トラップの設定

3.3 システム設定

「Chassis Over-Temperature」トラップの設定

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [Temperature Threshold Configuration] -> [Chassis Temperature Threshold Configuration] と進み、「Chassis Temperature Threshold Menu」画面を表示します。



本製品の最高温度を設定します。

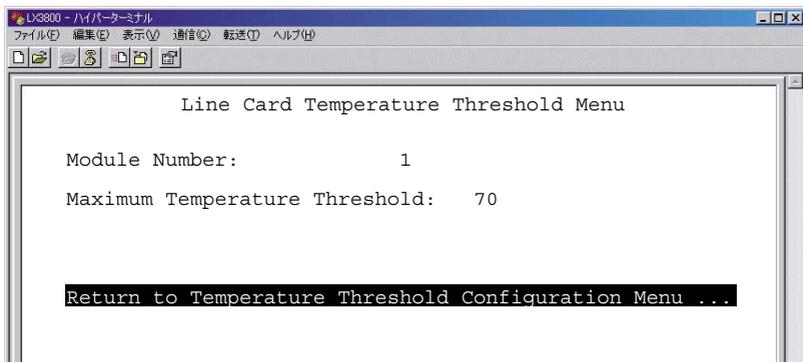
本製品の温度が設定した値を超えたとき、「Chassis Over-Temperature」トラップを送信します。

デフォルトでは「60」に設定されているので、ここでは「65」に設定します。

- 1 「Maximum Temperature Threshold」の頭文字 **[M]** キーを押して、「60」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押し、「->」プロンプトを表示させます。
- 3 「->」プロンプトに続けて、「65」と入力し、**[Enter]** キーを押します。「75」まで設定できます。

「Module Over-Temperature」トラップの設定

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [Temperature Threshold Configuration] -> [Line Card Temperature Threshold Configuration]と進み、「Line Card Temperature Threshold Menu」画面を表示します。



ラインカードの最高温度を確認、設定します。

ラインカードの温度が設定した値を超えたとき、「Module Over-Temperature」トラップを送信します。

1～8までのラインカードごとに確認、設定することができます。

デフォルトでは「70」に設定されているので、ここでは「75」に設定します。

- 1 「Module Number」の頭文字 **[M]** キーを押して、「1」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「1」～「8」までの数字を入力し、**[Enter]** キーを押します。
選択したラインカードに設定されている最高温度が確認できます。
- 4 「Maximum Temperature Threshold」の頭文字 **[M]** キーを押して、「70」の文字をハイライト表示します。
- 5 **[Enter]** キーを押し、「->」プロンプトを表示させます。
- 6 「->」プロンプトに続けて、「75」と入力し、**[Enter]** キーを押します。
「120」まで設定できます。

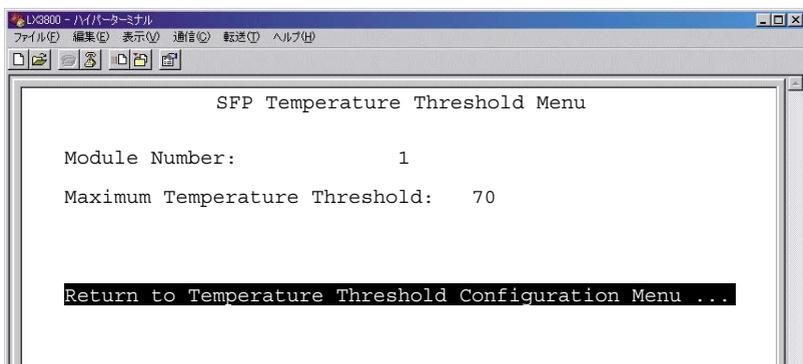
3.3 システム設定



ラインカードが装着されていないスロットを選ぶと「Selected module does not exist. Enter a new module number:」というメッセージが表示されます。最高温度の確認と設定はできません。

「SFP Over-Temperature」トラップの設定

[Main Menu] -> [System Configuration] -> [Temperature Threshold Configuration] -> [SFP Temperature Threshold Configuration]と進み、「SFP Temperature Threshold Menu」画面を表示します。



SFP の最高温度を確認、設定します。

SFP の温度が設定した値を超えたとき、「SFP Over-Temperature」トラップを送信します。
1～8 までの SFP ごとに確認、設定することができます
デフォルトでは「70」に設定されているので、ここでは「75」に設定します。

- 1 「Module Number」の頭文字 **[M]** キーを押して、「1」の文字をハイライト表示します。
- 2 **[Enter]** キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
- 3 「1」～「8」までの数字を入力し、**[Enter]** キーを押します。
選択した SFP に設定されている最高温度が確認できます。
- 4 「Maximum Temperature Threshold」の頭文字 **[M]** キーを押して、「70」の文字をハイライト表示します。
- 5 **[Enter]** キーを押し、「->」プロンプトを表示させます。
- 6 「->」プロンプトに続けて、「75」と入力し、**[Enter]** キーを押します。
「100」まで設定できます。

3.3 システム設定

4

付録

この章では、パラメーターのデフォルト設定、ハイパーターミナルや Telnet クライアントの設定手順について説明しています。

4.1 デフォルト設定

本製品のデフォルト設定の一覧です。

設定	デフォルト
IP パラメーター	
IP アドレス	10.0.0.1
サブネットマスク	255.255.0.0
ゲートウェイアドレス	Null
SNMP マネージャー 1 ~ 4 の IP アドレス	Null
Get コミュニティ名	public
Set コミュニティ名	private
Trap コミュニティ名	public
設置場所 (Location)	Null
管理者情報 (Contact)	Null
DHCP クライアント機能	Disabled
システム	
SNTP モジュールの有効 / 無効	Disabled
SNTP サーバーの IP アドレス	97.108.82.88
UTC オフセット	0
サマータイムの有効 / 無効	Disabled
SNMP サーバーとの同期間隔	0
コンソールターミナル	
エミュレーション	VT-100 compatible/ANSI
データビット	8
ストップビット	1
パリティ	None
通信モード	Full-duplex
通信速度	115200
ログイン	
「manager」パスワード	friend
「operator」パスワード	operator
セッションタイムアウト	5
ローカルログイン	Enabled
リモートログイン	Enabled
Telnet TCP ポート番号	23
トラップ	
本製品の最高温度	60
ラインカードの最高温度	70
SFP の最高温度	70

4.2 ハイパーターミナルの設定

コンソールターミナルとして、Windows 2000/XP に標準装備のハイパーターミナルを使用する例を示します。

(RS-232 ケーブルは、COM1 に接続すると仮定します。)

- 1 ハイパーターミナルを起動します。
[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム (すべてのプログラム)] をポイントします。
次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックします。
- 2 [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。[名前] ボックスで名前を入力し、[アイコン] ボックスでアイコンを選んで、[OK] をクリックします。
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。

- 3 接続方法を設定します。

Windows 2000 の場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] ボックスで、[Com1 へダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows XP の場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

- 4 「COM1 のプロパティ」 ダイアログボックスが表示されます。
各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。
(下の画面は Windows XP の場合)



4.2 ハイパーターミナルの設定

- 5 「XXXX- ハイパーターミナル (HyperTerminal)」のような、手順2で設定した名前のウィンドウが表示されます。

[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。次に[設定]タブをクリックし、各項目を下図のように設定して、[OK]をクリックします。

(下の画面は Windows XP の場合)



- 6 以上で、設定が終わりました。

[Enter]キーを押し、本体の電源を入れると、ソフトウェアのセッションが開始され、自己診断テストが実行されます。

4.3 Telnet クライアントの設定

本製品は Telnet サーバーを内蔵しているため、他の Telnet クライアントからネットワーク経由でログインすることができます。

ここでは、Windows 2000/XP の Telnet クライアントの設定方法を説明します。



Telnet を使用する場合は、あらかじめコンソールターミナルで本製品に IP アドレスを割り当てておく必要があります。

1 ネットワークに合わせて TCP/IP プロトコルの環境設定を行います。

Windows 2000 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。次に [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

[インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

Windows XP の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をポイントします。次に [ネットワークとインターネット接続] アイコンをクリックし、[ネットワーク接続] アイコンをクリックします。次に [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

[インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

各製品に添付されているマニュアルをご覧ください。IP アドレスなどを正しく設定してください。

2 Telnet クライアントを起動します。

[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET」と入力して、[OK] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET 192.168.200.1」のように、TELNET に続けて本製品の IP アドレスを指定することもできます。

3 ターミナルの設定を行います。

次のコマンドを入力して、**[Enter]** キーを押します。

```
Microsoft Telnet> SET TERM VT100 [Enter]
```

4 本製品の Telnet サーバーに接続します。

次のコマンドを入力して、**[Enter]** キーを押します。OPEN に続けて本製品の IP アドレスを指定します。

```
Microsoft Telnet> OPEN 192.168.200.1 [Enter]
```

4.3 Telnet クライアントの設定

- 5 以上で、設定が終わりました。
Telnet セッションが確立すると、「User Access Verification - Remote:」メッセージの後、「Login:」プロンプトが表示されます。

